財団法人日本タイ協會々報

第十九號

昭和十五年六月

昭和十五年六月

財團法人 日本タイ協會々報

第十九號

財團法人 日本タイ協會

財團法人

日本タイ協會々報第十九號　目次

口絵寫眞

一、（上、昭和十五年四月二十三日夜、華族會館に於ける日本・タイ協會主催、タイ國實業視察團歡迎晩餐會
（下、同五月十二日、日本工業倶樂部に於ける日本・タイ協會主催タイ國教育家訪日視察團歡迎午餐會

二、（上、岡崎忠雄氏招致第三回タイ國學生旅行團（昭和十五年五月七日於岡崎邸）
（下、同上昭和十五年五月十七日霞山會館に於ける日本タイ協會主催歡迎茶會

主張

○留日泰國學生指導斡旋機關設置並に日泰親善團體に事業奬勵促進助成金下附の必要……一

新聞論調

○米國と日本（一月二十七日盤谷タイムス紙所載）……五

○新秩序（一月三十一日盤谷タイムス紙所載）……七

○亞細亞とライン川（二月十六日盤谷タイムス紙所載）……八

○戰爭と物價（三月六日盤谷タイムス紙所載）……一〇

資料欄

○一九三七年タイ國國勢調査……一三

○タイ國に於ける相手國別輸入の現狀と輸入品の趨勢……二五
○一九三六—三八年度タイ國米穀輸出統計……二八
○獨逸北歐進駐のタイ國貿易に及ぼす影響……二九

雜苑

○スコータイの文化……三四
○タイ國に於ける華僑の情勢（其一）……天田六郎……四九
○亞細亞の肢脚タイ國……醫學博士　磯部美知……六九
○岡崎氏招致タイ國學生旅行團の陸軍戸山・幼年兩校參觀印象記……八一

雜報欄

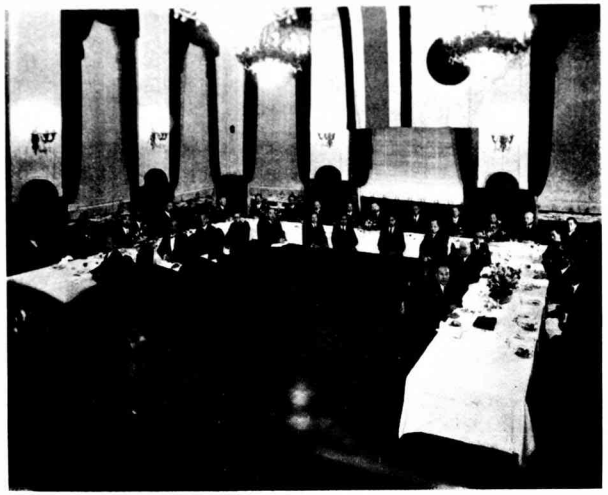
○秩父宮殿下中南支戰線御視察……八九
○秩父宮殿下を東亞競技大會總裁に奉戴……八九
○日泰友好和親條約……八九
○タイ國公使館に於ける國民記念日祝賀會……九一
○タイ國々民記念日當夜に於ける德川本會副會長のタイ國向放送……九一
○タイ航業會社を政府買收す……九二
○南泰ソンクラーに護謨會社設立……九二
○ソンクラーに聯隊設置……九三
○タイ國警務局の祕密結社彈壓……九三
○タイ國政府、重慶政府提案商務官設置を拒否す……九三
○華僑學校に對する文部當局の意見……九三
○タイ國佛曆新年を太陽曆新年に改正せんとする委員會設置……九三
○タイ國の防空演習……九三
○タイ國・英佛間に不侵略條約成立……九四
○タイ國寺院及寺院居住者數……九四
○タイ國より竹細工指導教授として横田仁郎氏を招聘す……九四
○駐泰帝國公使館附武官のタイ國防空基金中へ獻金……九四
○在泰邦人技師の國防獻金……九四
○タイ國日本學友會の設立……九四
○横濱正金銀行盤谷出張所、支店に昇格……九五
○タイ日本商工會議所役員改選……九五
○タイ國燃料局長の轉出……九五
○東京外國語學校にタイ語本科復活設置に關し山本代議士の質問要請……九五
○東京外國語學校にタイ語本科復活設置方陳情……九六

○東京外語タイ語速成科第三回修了者……九八
○東京外語第四回タイ語速成科入學者氏名……九八
○東京外語タイ人教師の更迭……九八
○青年文化協會經營「日語學院」の開講……九八
○日本放送協會タイ語放送の開始……九八
○日泰定期初飛行機「松風號」盤谷郊外ドン・ムアングに安着……九九
○タイ國文部省に本協會より寄贈せる兒童映畫に對し駐泰公使よりの來信……九九
○プラ・ビビツト・サーリー氏の善光寺へタイ國佛教經典奉納……九九
○「タイ國と山田長政」展覽會開催……一〇〇
○專修大學南洋事情研究會のタイ國留學生招待……一〇〇
○タイ國人士の往來……一〇〇
○笠原書記官の歸朝……一〇〇
○荒木、淺野兩家の慶事……一〇一
○細川、寺島兩家の慶事……一〇一
○津田信吾氏の美擧……一〇一
○山下龜三郎氏の美擧……一〇一
○タイ國實業視察團來朝歡迎……一〇一

○タイ國教育家訪日視察團歡迎會……一〇三
○岡崎氏招致第三回タイ國學生旅行團來朝……一〇四
○岡崎氏招致第三回タイ國學生旅行團より金澤貞三氏へ贈れる禮狀……一〇八
○元經濟相プラ・サラサ氏夫妻歡迎小宴……一〇九
○笠原書記官の歡迎小宴……一〇九
○正木直彦氏逝去……一〇九
○古河虎之助男の逝去……一〇九

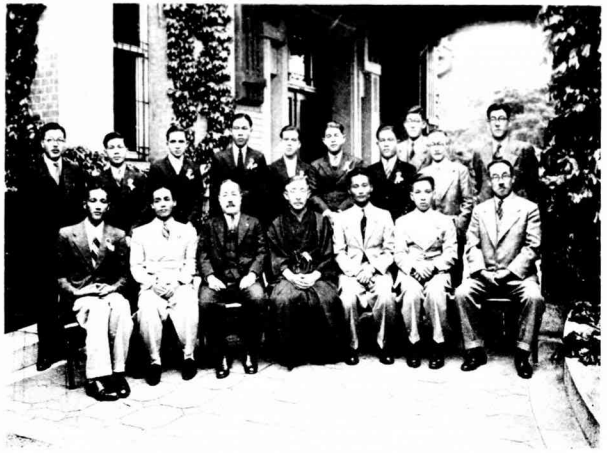
協會記事

○拓務省より補助金下附……一〇九
○會員の消息……一一〇
○寄贈圖書……一一〇
○財團法人日本タイ協會總裁役員並職員……一一一



昭和十五年四月二十二日夜華族會館に於けるロタリー協會主催ダイ國實業視察團歓迎晩餐會

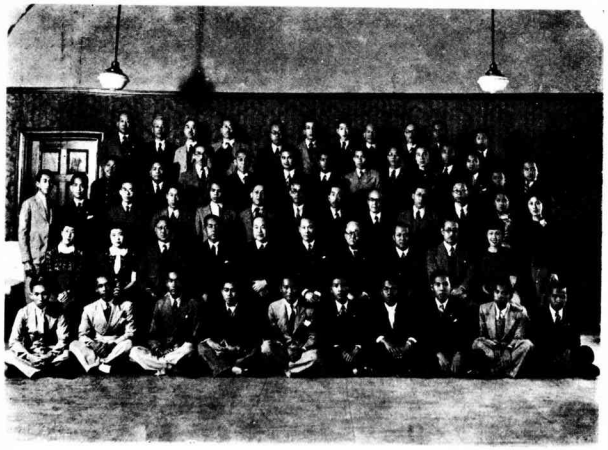
昭和十五年五月十二日　日本工業倶樂部に於ける日本ダイ協會主催ダイ國教育家訪日視察團歓迎午餐會



中（現崎岡於日七月五年五十和昭）團旅生學國イタ因（崎岡氏招致）

岡崎忠雄氏は岡崎氏

夫和服は岡崎氏



同上昭和五十五年七月十七日國際會館に於て協會イタ本日る

會興振化文際國本青日番二りよ右て向日列二・團行旅生學イタは名十列前

務外谷三・使公ナセーシ・ヤビ・事理務常田矢・官記書ブッチナタラ・事主

事理拓東藤齋・官武軍陸ターヨラビ・長部業事化文省

主張

○留日泰國學生指導斡旋機關設置並に日泰親善團體に事業奬勵促進助成金下附の必要

近今數年日泰兩國親善關係の增進に伴ひタイ國より留學の爲我邦に來朝する男女學生逐年增加、現在其の總數既に百二十餘名(其の內女子二十名を超ゆ)に達し尙續々增加の傾向に在り、是等學生は其の本國に於て何れも中流以上の家庭の子女たるは勿論、中には同國上流若くは政府要人の家庭に屬するもの不尠、留學を終へて本國に歸還すれば何れも社會の上、中流に位置を占む可く其の滯日留學中本邦に對して抱く好惡の感情は直接間接、日泰兩國の親善提携に多大の影響を及ぼすべきは誠に自然の數と謂ふべく往年支那留學生の最も盛なりし時代には其の數、數萬の多きに達したるが當時我邦朝野を擧げて是等支那留學生に對して親切溫情を以て之を指導するの誠意を缺き、甚しきは常に侮蔑の眼を以て之を虐待したるの例すら乏しからず、其の自然の結果として日本留學の支那學生は歸國後殆ど全部排日思想の傳播者となりたるは誠に慨歎に堪えざる所なり、之を英、米殊に米國に於ける外國留學生に對する親切なる指

導啓沃に比し其の差實に天壤も啻ならず、宜なる哉本邦留學の支那學生が激烈なる排日思想を抱いて歸國する一方、一と度英米に留學したる支那學生が心より英米を謳歌し其の同情者となることや、若し當年我邦朝野に於て英米程には行かずとも今少しく留學支那學生に對し親切なる溫情を以て之を待遇したらんには日支の關係は決して其の後に於て觀たるが如きものに非ざるべきは明かにして、今次の如き事變も或は始めより勃發を免れ得て相共に手を携へて共存共榮の常軌を踏んで東亞の平和を昂揚し得たらんも知るべからず、想ふて玆に到れば外國留學生の指導啓沃は國運の消長に至大の關係を存することを曉得し得べし。

支那留學生に於て既に苦き經驗を滿喫したる我々は何としても此の重大なる過誤を再びすべからず、**タイ**國留日學生待遇に就ては特に愼重なる考慮を要すべし、米國に於ては各地方に於て外國留學生の爲教會其の他團體の寄附に依り數千萬弗の基金を擁し、留學生會館を造り其の地滯在の外國留學生の爲種々の便宜を供與する施設を有するが就中、シカゴに於ては其の施設最も完備し、殆ど千名の留學生を收容する寄宿舍を設け其の建物たるや三、四階の堂々たるものにて、其の內部には食堂、寢室、圖書閲覽室及び娯樂機關等完備を極め寄宿學生をして毫も鄕愁を覺ゆることなく其の鄕國に在る以上の安易と愉快を覺えしむる仕組となり居れり、財物に豐富なる米國の眞似は一寸不可能にして殊に民間の寄附のみに依て是等の施設を爲すことは我邦に於ては望むべからざるに依り、先づ政府に於て音頭を取ること必要と信ず。

目下泰國學生關係の民間施設としては

一、東京、財團法人　日本**タイ**協會

總裁　秩父宮殿下　會長　近衞文麿公　副會長　德川賴貞侯　理事長代理　二荒芳德伯

事業――日泰文化提携、**タイ**國學生會館の經營、來朝留學生の就學斡旋等

二、東京、國際學友會

外務省文化事業部の補助に依り國際學友會館を經營して一般外國留學生を寄宿せしめ日語教授其の他就學等の斡旋を爲す。收容學生數四十名內外、其の內**タイ**國留學生十三名なり

三、東京、三井**タイ**室

室長　宮原武雄氏

タイ國經濟事情の調査、**タイ**國來朝者に對する便宜供與、**タイ**國留學生間の親睦助成

四、名古屋、日泰協會

會長　伊藤次郎左衞門氏

タイ國留學生の就學斡旋、留學生寄宿舍業善館の經營

五、神戸、日泰協會

會長　岡崎忠雄氏

「岡崎氏個人として每年**タイ**國日語研究學生十名內外に給費の上、本邦觀光に招致す」

（右一切の斡旋は東京に於ける日本**タイ**協會之に當る）

タイ國來朝者に對する便宜供與

右は孰れも資金薄弱なるが爲事業の規模小に過ぎ、今日に於てすら未だ少數なる**タイ**國學生に滿足を與ふること能はざる狀況なり、況や逐年增加の傾向にある**タイ**國學生數が今後數倍若くは數十倍に至るべき時を考ふるときは誠に

寒心に堪えざるものあり、政府當局は宜しく支那學生に關する往年の苦き經驗に鑑み、タイ國學生の指導啓沃に關し早きに及んで適確の措置を執り適當の機關を造るか或は既存の機關に充分なる補助を與へ其の機能を活動せしむる樣致されんことを切望に堪えず

新聞論調

○米國と日本

（一月二十七日、盤谷タイムス紙所載）

日米通商航海條約は米國通告の滿期に依り、一月二十六日を以て廢棄されたが、今の處では戰爭は勿論、對日輸出禁止と云ふが如きものゝ徵候もない。支那に於ける米國の權益が侵害されざる限り狀勢の變化はないであらうと云はれてゐる。それ故、殘酷な近代戰に訴へることなく、談判に依り事實上の平和を維持し得るやうに盡力をなす二國の動向が世界の耳目を集中することゝ何人も期待してゐる。併し、他方米國は海軍の軍備擴張を熱心に計畫し、常に繰り返し言はれてゐる太平洋の制覇權の確保を目指してゐると見られてゐる。

實際問題として日米間の過去に於ける長い親善は日支間の平和——眞の平和——に基礎を有して居たのであるが、今後は斯かる平和を得ることは容易なことではないであらう。此の平和を確保する爲め日本がなすべきことは、支那が日本の親善のヂエスチュアーに應じて滿洲國に關する暫定條約を締結すべしとの了解を支那から取り付け、斯の如くにして日本は戰爭を中止する爲の面子を立て得る口實を工夫すべきことである。

誰しも日本がそのやうにして迄も尙平和を望んでゐるかを疑ふであらうが、日本人の中には大乘的平和と稱すべき

ものに關して考慮してゐるものが多數ある。併し日本の陸軍が之に不贊成であるのは勿論であり、更に英國海軍が日本郵船から獨逸の船客を拉致した不祥事件は斯る平和談判に當つて日本の讓歩を甚だ困難にせしめた如くである。勿論日本政府は汪兆銘と妥協的平和を締結する意志はない。汪は單に厄介なことを惹起し、支那側の要人をして何事も論議するを好ますとの態度に出でしむるのみであらう。日本は今も尙ロボット中央政府を樹立して之と平和條約を締結せんと希望してゐるものゝ如くである。併し實際に於ては如何なる條約の締結も不成功であらうことは明瞭である近年吾々は屢々支那の國民的聲望は蔣介石唯一人に集中してゐる事を知つてゐる。故に若し日本が速かに平和を得んと欲するならば蔣介石を相手とするより外はないのである。

日本は日支事變を何等か日本の面子の立つ口實がなければ中止しないだらう事は既に述べた。併し日本が此の事變を惹起した事は誤謬であつたことを聲明し、支那と眞に友好的なる條約を結ぶ事が、日本にとつて賢明なる處置であると信ずる。「四億五千萬の人口を有する支那は今や益々急テンポを以て國家的大發展をなしつゝあると云ふことが、現狀を打開する鍵である」との「デイリー・メール」（香港紙）の說は眞實である。「支那の獨立、諸種の決定に對する支那の全面的參加、東亞の政治的經濟的將來に對して支那の責任の分擔に依つてのみ極東を鬪爭に非すして、平和の地となすことが出來るのである。」之は確かに熟慮すべき價値がある。更に太平洋に面する國々の眞に賢明なる途は利益の衝突を避け平等なる條約を締結して相協力して行くべきことである。之は非常に高遠なことの樣に見へるが、之を爲し遂げるを得た曉にはその及ぼす所は更に偉大なるものがあるであらう。

○新秩序

（一月三十一日、經濟タイムス紙所載）

日支兩國民は同じく北京に於ける吳佩孚將軍の死去を甚だ悼んでゐるので、同將軍の死は局外者にも注目された。日支共に吳を兩國の和平と協和の仲介者として非常なる期待を有して居た。吳は和平運動の斡旋に反對ではなかつたが、此の困難を極めた運動に着手せぬ內にその生命を失つたのである。今次の歐洲戰爭に於ても、日支事變に於ても同樣、攻擊國側は何れも「新秩序」の建設を目的とし、防衞國側では舊勢力の維持を主張してゐる。歐洲に於て英佛側はチエツコ・スロヴアキヤ及びポーランドの獨立を要求して居り、東亞に於ても同樣、日本軍は撤退すべきが當然であると見られてゐる。汪兆銘でさへ之を既定の事實として和平工作の第一步を踏み出したのである。河口より南京に至る揚子江の開放は日本として賢明なるヂエスチユアであつた事は疑問の餘地無い所であるが、軍隊の撤退に關しては全然觸れて居ないので米國の新秩序建設反對を好轉せしめることは不可能であらう。

昨年十二月、ソ聯が國際聯盟の決議に依り除名された席上、支那代表が棄權をしたのは確かに賢明なる處置であつた。フインランド問題に於けるロシアに對する一般の反感は支那問題に於ける日本のそれより强硬であつたが、支那の棄權は日本が侵略を開始してより以來ロシヤから物質的援助を得てゐたのに依るのである。日本は支那に於ける新秩序建設の正當性を確信してゐて、支那の抗日政策の固守及び、蔣政府に對する友好諸國の精神的物質的（是は精神的なものより僅少であるが）援助が、日本の聖戰の目的を著しく挫折せしめて居る事實を知つて憤激してゐる。日本

の方針を變更せしめ得る唯一のものは米國の向背にあると見られてゐる。米國の上院に於てビットマン氏は近々或種日本向輸出品を禁止せしめる權限を大統領に附與すべく法律を改變せんとしてゐる。併し、米國政府としては兩國の國交を調整せんとの方針であることは勿論である。

本文は更に最近の「オリエンタル・アフエーヤーズ」（上海發行）誌上の重要なる諸點を述べんとするものである。昨年末迄、汪兆銘はかの近衞聲明の三要點――領土的野心なし、賠償金を要求せず、支那主權を尊重す――に基き進んで和平を締結せんとしてゐた。それは十一月のことであつて、汪は斷乎として新支那政府獨立の保證として日本軍の部分的撤退を主張し、更に鐵道並びに稅收入の自由なゝ管理を要求したのであるが、日本軍として斯る諸件の承認は不可能であつたので、十二月中旬汪は日支和平の機未だ熟せずと云ふことを率直に表明した。天津の英、佛租界封鎖の强化に關する最近のニュース、淺間丸事件に對する抗議等も亦支那に於ける和平と協和は未だ遠い事を物語つてゐる。

○亞細亞とライン川

（二月十六日、盤谷タイムス紙所載）

ベロツク氏は一八九五年以來多くの著書を發表して居て、「フーズ・フー」に載つてゐる書物だけでも九十冊位もある。現今の著述家は同氏を新聞評論家と見てゐる位で事實此の數も夥しいものである。茲に同氏の名を記したのは、昨年十二月「ウイクリー・レヴイユウ」誌上に、過去三千年間繼續し來れる東西兩洋の大決戰が最近の獨ソ協定を契機として復活したとの警告文を紹介せんが爲である。即ち亞細亞は再び歐羅巴に接近して來た、同氏評論の冒頭の言葉を引用すれば「亞細亞はライン川迄擴大した」と云ふのである。之が果して情勢を正しく述べてゐるか否かは疑問であるが、確かに興味深い忠告であり、考ふるべきものが含まれてゐると信ずる。今やベロツク氏が過去の鬪爭の梗概で述べてゐるやうな事態が切迫してゐるのである。

同氏は是迄の歷史を省みれば常に西洋に對する東洋人の鬪爭及び東洋に對する西洋人の鬪爭が行はれて來た、東西は相反する自己の文化、哲學、宗教及び社會的風習、特質を有してゐる。その上今や言及せんとするのは、東西兩洋は武器で以ても又對抗し來つたといふ事實である。言ふ迄もなく最初の支配者は東洋人であつた。東洋人は强大な王國を建て、次第にシリヤ、中部亞細亞へと西進し、地中海に於ける最初の支配的强國、カルタゴ王國を建設した。紀元前三三三年から三二五年の間に波斯並びに印度に反擊を加へ始めたのはアレキサンドル大王で、カルタゴ戰爭の結果、カルタゴは紀元前一四六年に滅亡してかのローマ大帝國が支配者の地位に登つた。斯る狀態は約一千年繼續した六世紀に至りシリヤ、中央亞細亞、北アフリカを席捲する大マホメツト運動が起つた。此の運動に對して十字軍が立つたが、斯かる亞細亞の前哨は十六世紀末葉の維也納包圍に於いてさへも見られた。然るに十八、九世紀に至つて斯かる傾向は一轉して東洋が退却し、常に「イスラムには鐵砲がない」と繰返し來つた西洋が登場して來た。既に西洋は思想、商業、平時並びに戰時用具に於ても覇權を握るに至つたのである。

以上は全然ベロツク氏の記事の梗概であるが、同氏に依れば獨逸がロシヤと協定を締結したことは、亞細亞が裏口から歐羅巴に入り込んだといふのである。ナチ政治は本質的には共產主義の原理に基いてゐると見てをり、他方伊太利、スペインをも含めて西歐列强は、西洋を育成したギリシヤ、ローマ文明の傳統を守つてゐる、此の意見から究極

に於ては獨對英佛に非すして、ロシア對全歐洲文化で、ソビエットが此の文化を破壞せんとしてゐると云ふ結論を出してゐる。之は實に興味深い教訓である。併し、**タイ**國は歐洲文化の破壞に乘り出すこともないし、日本も亦此の問題に關しては同樣である。ロシアを通じて亞細亞が歐羅巴に接近して來たと云ふ事實が今日の危機の最も重要なる問題である、との記事を讀むことは感慨深いものがある。併し歐洲から遠く離れて住んでゐる吾々は亞細亞を敵視する理由は何等ないのである。

○戰　爭　と　物　價

（三月六日、盤谷タイムス紙所載）

タイの如き國は歐洲及び支那の戰爭から如何なる影響を受けてゐるであらうか。此の疑問に對する應答を正確な數字や記事で說明することは今のところ不可能であるが、印度に於ては如何に論ぜられてゐるかを述べることは或る人人には興味あることゝ思はれる。此の問題に關する討議は印度の官吏間に先月から開始されてゐる。戰爭は物を甚しく混亂せしめる。戰爭の爲めに國際市場は變化し、從來行はれ來つた貿易經路は狂つて了ふ。事實戰爭は經濟的災害とも言ふ可く、其の最も慘憺たる結果は一度び戰爭が終了した後に始めて一層明白になるものである。併し乍ら、それが部分的であり、一時的なものであるとは言へ、戰爭が或る時期には好影響を齎す事もある。今次戰爭も確かに現在迄のところでは印度の或る種產業に利益を與へてゐる。卽ち印度の重要產物、皮革、黃麻の如きは國外需要が旺盛となり、その價格を著しく昂騰せしめてゐる。永年此種產物の生產者は生產費に比して採算の取れぬ位の報酬しか得る事が出來なかつたのであるが、今や斯くの如く戰爭が之等產物の輸出促進の强大なる刺戟となつたのである。併し右の如き一方的好況は都市の勞働者及び廣汎なる定收入生活者層の生活狀態をも惡化せしめてゐる。

更に戰爭は印度が輸入し來つた從來の多數商品に種々なる障害を及ぼすであらう。斯かる輸入の困難性は一般には不利ではあるが、時としては印度國產品の增加發展を期待することも出來るであらう。事實印度の貿易尻は好轉して國債の支拂を可能ならしめてゐる。印度政府の經濟顧問は物價の昂騰指數を擧げてゐる。卽ち、昨年九月二日の指數を一〇〇とすれば、同年末の重要商品物價指數は一三七、原料品は一三〇となつてゐる。輸入品の値上りは一部分は運賃及び保險料の上昇に依ることは確かであるが、斯かる價格の變動は必然に不當利得を占める機會を與へてゐると思はれる。經濟界の改善と共に紙幣並びに銀貨の流通高は六十五クロア・ルピー（六億五千萬ルピー）に上昇した。昨年四月から十一月に至る印度の貿易尻は一九三八年同期と比較して二十四クロアから三十三クロアへと上昇して、其の好轉振りを示してゐる。

タイ國に於ける好轉の數字は印度の如く明白に表はれてゐない。佛曆二四八二年（西曆一九三九——一九四〇年）四月から一月に至る盤谷港輸出の米、チーク、チーク以外の木材、護謨は九千九百七十萬銖であるに比して、二四八一年の同期は八千百九十萬銖であり、亦、二四八二年九月から一月に至る五ケ月間は五千四百七十萬銖であるに比し二四八一年は三千八百十萬銖であつた。戰爭開始の昨年九月から十二月に至る四ケ月間の錫鑛及び護謨の輸出額は前年同期の一千六百四十萬銖に比して二千二百六十萬銖と增加してゐる。戰爭に伴ふ物價騰貴は多少**タイ**にも利益を齎したのであるが、將來不利益なる事も多々あるを期待してゐなければならぬのである。

資料欄

○一九三七年タイ國國勢調査

本年三月十一日付タイムス紙の發表、タイ國々勢調査によれば總人口一四、四六四、一〇五人、その中男七、三一三、五八四人、女七、一五〇、五二一人である。男女の割合は一〇二對一〇〇を示した。

尚ほ各縣別・體件別、世帶別、動態別、年齢別、國籍別、宗教別、教養別、職業別、失業者別、聾啞盲者別に人口を記せば次の如くである。

縣別・體性別

縣名	男	女	計
バンコック	三七二、四八一	三一二、五一三	六八四、九九四
クラビー	二八、五九〇	二七、〇七四	五五、六六四
カンチヤナブリー	五九、二二七	五五、一〇八	一一四、二三五
カンペーンペット	二九、一二四	二八、一三八	五七、二六二
コーンケーン	二二五、〇四五	二四〇、四七一	四七五、五一六
チヤンタブリー	五一、七八八	四九、一五〇	一〇〇、九三八
チヤチヨオーンサオ	一〇二、七三九	九八、三九二	二〇一、一三一
チヨンブリー	七六、八〇八	七三、〇九八	一四九、九〇六
チヤイナート	七六、六八五	七五、五一八	一五二、二〇三
チヤイナヤブーミー	一一六、七〇六	一二〇、五〇八	二三七、二一四
チユンポーン	五二、四七七	四九、三七〇	一〇一、八四七
チエンライ	二二三、九四四	二一九、四六七	四四三、四一一
チエンマイ	二七四、六四八	二六九、一九八	五四三、八四六
トラング	六四、二八二	六一、二九六	一二五、五七八
トラート	二〇、五六九	一八、四五四	三九、〇二三
タク	四六、七四六	四六、〇二九	九二、七七五
トンブリー	一〇六、九五七	九八、五〇二	二〇五、四五九
ナコーン・ナヨック	五〇、〇四六	四八、一八三	九八、二二九
ナコーン・パトム	一一四、四八二	一二、二五九	二二五、七四一
ナコーン・パノム	一二一、八四五	一二五、五五八	二四七、四〇三
ナコーン・ラチヤシマ	三〇四、一七七	二九四、三二六	五九八、五〇三
ナコーン・スリタンマラート	二〇一、八五二	一八四、二〇九	三八六、〇六一
ナコーン・サワン	一五四、二二六	一四六、一四一	三〇〇、三六七
ノンタブリ	五九、四一一	五五、七七四	一一五、一八五
ナラテワート	七五、五四六	七一、二九五	一四六、八四一

ナーン　九九、一五四　九九、七七三　一九八、九二七
ブリラム　一二〇、八八九　一一九、四四九　二四〇、三三八
ブラツームタニー　六四、〇九〇　六〇、一三五　一二四、一二五
コラツク　三一、一七〇　二八、二八八　五九、四五八
プラチヤンブリー　九五、八九七　九〇、一五七　一八六、〇五四
パタニー　九六、八〇九　九六、二八八　一九三、〇九七
アユータヤ　一六四、五八四　一六二、〇〇七　三二六、五九一
パンガア　三〇、一九八　二六、六二二　五六、八二〇
パタルーング　五八、九二八　五八、八七九　一一七、八〇七
ピチツト　九一、一〇七　八六、一七〇　一七七、二七七
ピサヌローク　八三、一三三　八一、三二七　一六四、四六〇
ペチヤブーン　六六、〇五八　六四、九三三　一三〇、九九一
ペチヤブリー　七七、七一一　七八、一〇六　一五五、八一七
プレア　九一、〇一五　九〇、四三七　一八一、四五二
プケツト　二二、二四九　一九、五七八　四一、八二七
マーハサーラカーム　二八三、五七四　二八七、〇七四　五七〇、六四八
マエホンソン　三五、四八三　三五、〇〇一　七〇、四八四
ヤラー　四一、一二七　三五、〇四八　七六、一七五
ラノン　一一、五七八　九、七五一　二一、三二九
ライ　三四、二二四　三三、七三〇　六七、九五四
ヨン　二一〇、五四七　二二〇、六三五　四三一、一八二
ロイ・エト　一三七、四五六　一三四、〇〇四　二七一、四六〇
ラチヤブリー　八一、二四八　七六、四九四　一五七、七四二
ロブリー　一五四、八七一　一五三、七六九　三〇八、六四〇
ランパーン　八五、五二七　八五、二六一　一七〇、七八八
ランプーン　五六、四二六　五六、六九四　一一三、一二〇
ロエイ　一七五、九五九　一八七、九〇三　三六三、八六二
スリサケツト　一〇三、五四三　一〇八、九八六　二一二、五二九
サコール・ナコーン　一五五、七〇四　一四四、七九六　三〇〇、五〇〇
ソンクラ　二一、八一八　二〇、八八七　四二、七〇五
サツーン　六八、〇一一　六四、〇五一　一三二、〇六二
パクナム　四八、八〇五　四九、八五四　九八、六五九
メクロン　四二、七〇七　四一、四一五　八四、一二二
タチーン　九三、六七九　八八、六七五　一八二、三五四
サラブリー　四八、七二八　四九、五九八　九八、三二六
シンハブリー　七五、四一四　七五、八八八　一五一、三〇二
スコータヤ　一四五、三三一　一四二、六七二　一八八、〇〇三
スーパンブリー　九〇、四八一　八五、〇〇四　一七五、四八五
スーラトターニー

スリーン	一六八、二一五	一七〇、六二五	三三八、八四〇
ノンカーイ	五七、六六六	五七、七七五	一一五、四四一
アーントン	六三、〇三五	六三、八四一	一二六、八七六
ウドン・タニー	一三一、六八三	一三一、一七三	二六二、八五六
ウッタラヂット	七三、三九六	七一、六〇三	一四四、九九九
ウタイ・ターニー	四二、七六五	四三、四八八	八六、二五三
ウボン・ラヂヤターニー	三六一、一九〇	三八三、六四六	七四四、八三六

世帶別

世帶總數は三、一七八、二九九、その中男戸主二、七一〇、三七九人、女戸主四六七、九二〇人にして平均一世帶當り四・六人となる。内譯次の通りである。

	男	女	計
世帶主	二、七一〇、三七九	四六七、九二〇	三、一七八、二九九
妻	——	二、五〇一、九〇六	二、五〇一、九〇六
子供	三、六一九、六七五	三、六〇七、二二八	七、二二六、九〇三
兩親	一六、五三八	八二、四八二	九九、〇二〇
兄弟姉妹	一〇一、三〇五	九四、二一三	一九五、五一八
親戚	二〇五、〇八八	二〇一、五一七	四〇六、六〇五
僕婢	一四〇、二三三	三五、八三四	一七六、〇六七

其他	五二〇、三六六	一五九、四二一	六七九、七八七
計	七、三一三、五八四	七、一五〇、五二一	一四、四六四、一〇五

動態別

總人口の中、未婚者八、三三六、四九七人、結婚者五、二二〇、一八四人、寡婦及鰥の六九三、三〇五人、離婚者二一三、七二九人で、その内譯は左の如くである。

	男	女	計
未婚者	四、四六六、九五五	三、八六九、五四二	八、三三六、四九七
結婚者	二、六〇八、九八七	二、六一一、一九七	五、二二〇、一八四
寡婦及鰥	一七七、二三六	五一六、〇六九	六九三、三〇五
離婚者	六〇、〇七五	一五三、六五四	二一三、七二九
不詳	三三一	五九	三九〇
計	七、三一三、五八四	七一五〇、五二一	一四、四六四、一〇五

年齡別

人口を年齡別に分ければ

年齡	男	女	計
一歲未滿	二六一、四四六	二五四、六九九	五一六、一四五
一——五	一、一九二、〇八六	一、一六八、七六一	二、三六〇、八四七
六——十	九七九、八七六	九四九、八〇四	一、九二九、六八〇

十一——十五	八三三、七八三	八一〇、九一三	一、六四四、六九六
十六——二十	六八五、六八五	七〇〇、三二四	一、三八六、〇〇九
二十一——三十	一、一九五、五二八	一、一八六、七六〇	二、三八二、二八八
三十一——四十	八九九、六〇〇	八五六、八三九	一、七五六、四三九
四十一——五十	五七六、二七八	五四二、二三四	一、一一八、五一二
五十一——六十	三七三、六〇三	三七三、五四二	七四七、一四五
六十一——以上	三一三、九〇五	三〇五、二四七	六一九、一五二
不詳	一、七九四	一、三九八	三、一九二
計	七、三一三、五八四	七、一五〇、五二一	一四、四六四、一〇五

國籍別

タイ國人の總數一三、八四一、三〇四人、外國人六二二、八〇一人で、內譯左の如し。

國籍	男	女	計
タイ國人	六、九二一、四四〇	六、九一九、八六四	一三、八四一、三〇四
支那人	三三五、五二四	一八八、五三八	五二四、〇六二
日本人	三三九	一七五	五一四
アフガニスタン人	二	一	三
亞剌比亞人	三	二	五
埃及人	一	—	一
イラク人	—	—	—
イラン人	五	一	六
土耳其人	—	—	—
米國人	五七	五三	一一〇
英國人	三一、七七六	二三、八〇〇	五五、五七七
愛蘭人	一六	一	一七
佛國人	二二、三〇六	一六、四三〇	三八、七三六
和蘭人	一、七一五	一、三五二	三、〇六七
伊太利人	六二	三九	一〇一
獨逸人	七一	四五	一一六
瑞典人	六	七	一三
諾威人	六	四	一〇
丁抹人	九七	九一	一八八
白耳義人	二	九	一一
オーストリア人	一一	六	一七
瑞西人	一一	八	一九
西班牙人	二一	五	二六
葡萄牙人	三八	四五	八三
波蘭人	一	—	一

露西亞人	一四	二二	三六
希臘人	二	一	三
芬蘭人	一	—	一
アルバニア人	三	一	四
ルクセンブルグ人	一	—	一
チェッコ人	七	二	九
他の亞細亞人	三四	一二	四六
同歐洲人	四	一	五
同米洲人	七	五	一二
其他	一	一	二
合計	七、三一三、五八四	七、一五〇、五二一	一四、四六四、一〇五

宗教別

佛教徒の總數一三、七五二、〇九一、マホメット教徒六二六、九〇七、基督教徒六九、二二七、其の他一五、八八〇となる。尙之を表示すれば次の通りとなる。

	男	女	計
佛教	六、九五二、三二八	六、七九九、七六三	一三、七五二、〇九一
マホメット教	三一六、二一八	三一〇、六八九	六二六、九〇七
基督教	三五、〇六〇	三四、一六七	六九、二二七
其他	九、九七八	五、九〇二	一五、八八〇
合計	七、三一三、五八四	七、一五〇、五二一	一四、四六四、一〇五

教養別

實際調査の對象になつてゐるものは十歳以上としてゐる。

本調査は合計一〇、〇〇〇、三五五人の中讀み書きをなし得る者は三、一二一、七七一人、文盲者は六、八八八、五八四人であつた。

前者の百分率は三一・一、後者は六八・九を示した。その內譯をすれば

	總數 男	總數 女	總數 計	百分率 男	百分率 女	百分率 計
讀み書きし得る者	二、三七七、三四九	七三四、四二二	三、三一一、七七一	四七・〇	一四・九	三一・一
讀み書きし得ざる者	二、六七八、三七九	四、二一〇、二〇五	六、八八八、五八四	五三・〇	八五・一	六八・九
合計	五、〇五五、七二八	四、九四四、六二七	一〇、〇〇〇、三五五	一〇〇	一〇〇	一〇〇

讀み書き出來得る者の中で普通小學校教育の課程を修了せる者は一、一四二、九〇一人、中等教育を修了せる者一二、五一八人專門教育修了者五、〇七七人である。

	男	女	計
小學校卒業	八〇四、四三四	三三八、四六七	一、一四二、九〇一
中學校卒業	一〇、四八九	二、〇二九	一二、五一八
專門學校卒業	四、六四八	四二九	五、〇七七

合計	八一九、五七一	三四〇、九二五	一、一六〇、四九六

職業別

國勢調査施行當時に於ける各種職業に從事し居れるもの合計六、八二三、五五六人を示した。今之を職業別に分類すれば左の如し。

職業別	男	女	計
農業及水産業	三、〇一八、八九二	三、〇〇九、九〇三	六、〇二八、七九五
林業	一五、〇一二	五、三九五	二〇、四〇七
商業	二二一、四六一	一三五、八七五	三五七、三三六
工業、發明、機械業	九六、八四〇	三三、一一四	一二九、九五四
鑛業	一三、八〇七	一、二六四	一五、〇七一
運輸及交通業	五六、五六八	二、二八九	五八、八五七
官公吏	六二、一六二	七一六	六二、八七六
自由業	四一、六〇四	八、一四三	四九、七四七
家事使用人	五四、四〇四	二八、一八六	八二、五九〇
僧侶	一七、四九九	四二四	一七、九二三
合計	三、五九八、二四七	三、二二五、三〇九	六、八二三、五五六

失業者別

■本表に於ける失業者とは以前に勞働を常とせる者にして本調査施行の際失職せる者、以前に勞働を常とせざる者、年少者の如く未だ働き得ざる者は除外して居る。

調査當時に於ける失業者總數は一一、四二五人で、その内譯は次の通りである。

職業別	男	女	計
農業及水産業	四、八四九	二、二九二	七、一四一
林業	四五四	九四	五四八
商業	五三二	三〇三	八三五
工業、發明、機械業	八〇〇	一〇六	九〇六
鑛業	五二	一七	六九
運輸及交通業	四一九	一九	四三八
官公吏	一二七	三	一三〇
自由業	一四六	五二	一九八
家事使用人	七〇四	三六一	一、〇六五
僧侶	九四	一	九五
合計	八、一七七	三、二四八	一一、四二五

聾啞盲者別

聾啞及盲者總數三一、三二八人、その中男一七、一三二人、女一四、一九七人にして、人口千に付き二の割合となる。

	男	女	計
盲	六、〇七〇	五、五二〇	一一、五九〇
聾	四、八六〇	三、四一〇	八、二七〇
啞	五、八九九	四、九八五	一〇、八八四
盲聾	一五八	一三八	二九六
盲啞	二八	二七	五五
聾啞	七二	五一	一二三
聾盲	四四	六六	一一〇
合計	一七、一三一	一四、一九七	三一、三二八

タイ國總人口表

年	月	次	日	總人口
一九〇五年	三	三	一	七、七四一、〇〇〇
一九一一	四	一		八、二六六、〇〇〇
一九一九	四	一		九、二〇七、〇〇〇
一九二九（國勢調査）	**七**	**一五**		**一一、五〇六、二〇七**
一九三〇	三	三一		一一、六八五、〇〇〇
一九三一	三	三一		一一、九四一、〇〇〇
一九三二	三	三一		一二、二〇三、〇〇〇
一九三三	三	三一		一二、四七〇、〇〇〇
一九三四	三	三一		一二、七四三、〇〇〇
一九三五	三	三一		一三、三五五、〇〇〇
一九三六	三	三一		一三、五〇二、〇〇〇
一九三七	三	三一		一三、八〇五、〇〇〇

○タイ國に於ける相手國別輸入の現狀と輸入品の趨勢

歐洲戰爭勃發以來減退を豫想せられたる歐洲諸國、就中英國、獨逸、白耳義等よりの輸入は昨年十一、十二兩月に於て遂に顯著なる減退を示した。

今次歐洲戰爭勃發前の**タイ**國に於ける相手國別輸入狀況と、十一、十二兩月との輸入狀況を比較するに左表の如く歐洲諸國品の輸入は次第に減退し、之に代りて極東に於ける日本、香港（支那製品中繼）印度等が主要供給國となるに至つた。

仕出國	昭和十四年七月	昭和十五年十一月	昭和十四年十二月
英國	一、二二九、七二八銖	五三一、七三二銖	八四四、六五三銖
日本	一、一三四、〇三九〃	一、四五一、三九九〃	一、二七九、五二一〃
獨逸	九七一、四五五〃	二八四、〇二二〃	二五、一三〇〃

香港	八〇二、六四八〃	一、一六二、七八二〃
新嘉坡	七六四、四二九〃	一、五二五、四六六〃
印度	五八六、四四七〃	六四九、四三二〃
米國	三八四、五五六〃	六二三、六二七〃
支那	二九六、五七三〃	二、三〇〇、五八五〃
蘭領印度	二一六、三五二〃	九二〇、七七九〃
和蘭	一九九、三一〇〃	八六二、〇七五〃
白耳義	一七七、一八六〃	四五九、一〇八〃
濠洲	五五、一九二〃	四八三、〇六六〃
英領馬來	二六、三九八〃	五九六、九九七〃
緬甸	八、八二一〃	二九四、八五四〃
彼南	五、七五四〃	一、九五二、三七八〃
其他諸國	九二四、七七一〃	七三、三二一〃
合計	七、七八三、六五九〃	一一、五三七、六六七〃

（右表の内十一月中に於て和蘭よりの輸入が多額に上れるのは浚渫船一隻（百萬錢以上）を政府が購入せしが爲なり）

右表により今後市場に對する主要仕出國は日本、香港（支那製品中繼）印度等なる事が察知せらるゝが、此の内印度よりは麻袋の輸入を主としをる關係上、自らその取扱品の分野を異にする。

從ひて將來、當市場に於て本邦品（殊に一般雜貨、乾物等）と最も白熱的競爭を演ずると考察せられるものは香港經由の土海製品及び南支の乾物、生果、茶等である。

次に歐洲戰爭勃發以後に於ける當市場の物價の騰貴率を見るに左表の如くである。

A、主なる支那製品。單位錢（括弧内は五月三日の市價を一〇〇としたる指數）

品名		昭和十五年二月三日	昭和十四年八月三十日	昭和十四年五月三日
中華フエルト帽	打	一四・五〇（一二〇）	一二・〇〇（一〇〇）	一二・〇〇（一〇〇）
魔法瓶（ニバイ）	〃	一八・五〇（一〇〇）	一八・五〇（一〇〇）	一八・五〇（一〇〇）
カンバス靴	〃	八・〇〇（一一四）	七・〇〇（一〇〇）	七・〇〇（一〇〇）
タオル一等品	〃	一・八〇（一〇五）	一・七〇（一〇〇）	一・七〇（一〇〇）
上海製ペイント	罐	三・二五（一一四）	二・八〇（九八）	二・八五（一〇〇）
〃三奇〃印葉茶	廿五斤	二八・〇〇（一〇〇）	二八・〇〇（一〇〇）	二八・〇〇（一〇〇）
〃秋〃印烏龍茶	〃	一七・五〇（一〇〇）	一七・五〇（一〇〇）	一七・五〇（一〇〇）
生綿絲俵		二〇〇・〇〇（一二五）	一五八・〇〇（九八）	一六〇・〇〇（一〇〇）
絹薄布	匹	九・七五（九七）	八・五〇（八五）	一〇・〇〇（一〇〇）
絹布	三¾碼	九・〇〇（一二〇）	六〇・五〇（八六）	七・五〇（一〇〇）
山東絹布	匹	二〇・〇〇（一〇八）	一七・〇〇（九一）	一八・五〇（一〇〇）
B、主なる外國品				
小麥粉	袋	四・五八（一二七）	三・七五（一〇八）	三・六〇（一〇〇）
ラード	擔	二五・〇〇（一二八）	一八・五〇（九四）	一九・五〇（一〇〇）

白砂糖	〃	一七・四五(一三四)	一二・九〇(九九)	一三・〇〇(一〇〇)
麻袋	百枚	四三・五〇(一八三)	二二・五〇(九四)	二三・七五(一〇〇)
圓鐵	擔	一五・〇〇(一六六)	八・七五(九七)	九・〇〇(一〇〇)
鉄力板	〃	二二・〇〇(一六二)	一三・五〇(一〇〇)	一三・五〇(一〇〇)
亞鉛引鐵板 浪板三〇番	擔	二二・〇〇(一五一)	一四・五〇(一〇〇)	一四・五〇(一〇〇)
平板	枚	一・五〇(一四二)	一・〇〇(九五)	一・〇五(一〇〇)
ワイヤネイル(四吋度)	〃	七・五〇(一九七)	三・八〇(一〇〇)	三・八〇(一〇〇)

右表の如く大體**タイ**國市價は昨年八月を底とし、或物は急騰し、或物は漸騰を續けしが、其の內最も騰貴率の高きものは他市場同樣の金物類、食料品と**タイ**國米輸出旺盛に伴つての包裝用麻袋である。

然るに一般雜貨は法幣の下落により支那製品が低廉に供給せらるゝ爲、兎角値上りの率少く、玆にも**タイ**國市場に於て日本雜貨の捌き難き一つの事情が存在した。卽ち假に日本物價騰貴率に**タイ**國騰貴率が追隨し得ぬ時の來らば日**タイ**間取引は之が爲に引合難に陷り、**タイ**國市場は徒らに支那製品の跳躍を許すの危機に至らう。

(貿易組合中央會第二部情報課發表)

○一九三六年——三八年度タイ國米穀輸出統計

『盤谷市場報告』に據る最近三箇年に於ける盤谷港よりの米穀輸出統計を示せるものにて、この輸出米中には白米、粉米、碎米、糯米、ライス・ミルを含んでゐるが是等の產額は不明である。仕向國としては(一)新嘉坡及F・M・S(二)香港、(三)日本と謂ふ順である。

項目＼年次	一九三六年四月～一九三七年三月		一九三七年四月～一九三八年三月		一九三八年四月～一九三九年三月	
	數量(瓲)	價額(銖)	數量(瓲)	價額(銖)	數量(瓲)	價額(銖)
產額	—	—	—	—	—	—
輸出 日本	四六、八八・九五	二、四一〇、三五	二四、八三・八三	二、二四一、五一九	二五、一〇五・四四	一、四六一、二三九
輸出 新嘉坡及F・M・S	三八、七九六・〇六	三三、二八八、八〇三	五〇、一六五・九三	三六、八三三、一二三	六五八、一八八・二七	四一、四九八〇〇八
輸出 香港	三三、五一〇・五〇	一八、六八九、四七	二四一、四四四・七〇	一六、〇一九、五三五	二八九、三四九・〇〇	一七、六一七、一七三
輸出 高其他	八三、八三五・五一	三六、八〇八、五六九	三九、四五五・〇一	一七、七三三、五一八	五〇六、七三五・三〇	三三、五一〇、〇〇〇
輸出 計	一、四八〇、九四四・八九	三九、〇三一、三六八	一、〇四七、九八四・五九	七三、〇七一、三九一	一、四七七、四一八・四一	九四、〇七七、四〇九

○獨逸北歐進駐のタイ國貿易に及ぼす影響

(バンコック貿易斡旋所調査)

去る四月九日獨逸の丁抹、諾威進駐により歐洲戰爭も愈々第二次段階に入り、各國經濟界は何れも多少の影響を免れぬと觀察せらるゝが、**タイ**國に於ては差當り左の如き影響が豫想せられる。

先づ最も主なるものは丁抹、諾威兩國の海運問題にて、香港、新嘉坡に於て早くも丁、諾兩國船が抑留せられ、碇

泊中の兩國船が一時出港を見合せとなりし事より見て、今後の南洋沿岸一帶の就航船舶數は減少必至と見らる。

今、丁抹、諾威兩國船が豫想の如く就航船舶數を減少せし場合、**タイ**國に如何なる影響あるかを考へる爲、同國出入船舶總隻數及び總噸數の內丁抹、諾威兩國船の占める割合を見るに左表の如くである。

盤谷港出港船舶噸數及び隻數國籍別統計表（昭和十四年十一月中）

諾威	四五隻	四八、一七四噸	
英國	十八隻	二五、〇一六噸	
丁抹	六隻	二三、二八五噸	
和蘭	四隻	一五、八三四噸	
伊太利	二隻	五、九五七噸	
タイ	九隻	四、九〇二噸	
日本	三隻	九、三二七噸	
計	八七隻	一三二、四九五噸	

右の如く丁抹、諾威兩國船は隻數、噸數共に同國出入船舶總隻數、總噸數の五割强を占めをる關係上、一般の豫想する如く丁抹、諾威船が就航停止乃至は就航隻數の減少を來せば一時的にもせよ同國物產の輸出及び外國品の輸入は尠からぬ影響を蒙るであらう。

而して丁抹、諾威船が英國の管理下に於てのみ就航し得ることゝならば、その行動には今後相當の束縛が加へらるゝわけにて、殊に當國の如く隣接國が英佛領のみなる國に於ては英、佛兩國の貨物以外の積込には考慮を要するを以て、今後丁抹、諾威兩國船は隻數の減少甚しきもの有らうと豫測せられる。

なほ、諾威船の航路より見て、同國船の減少は歐洲のみに止まらず、香港、新嘉坡等の貨物輸送をも削減するものと思考さるゝを以て、同國船の減少は日**タイ**直航路を有する本邦品輸出に裨益する處大なるものがあらう。

現在の同國市況に就て見るに、物產に於ては米價は今の處保合狀態なるが、本日（四月十六日）の報告によれば、現在約八萬噸の契約輸出米が輸送の關係により積出不可能の狀態なり、とのことなるを以て、船運恢復に何等かの好報あらざる限り米は今後幾分下向きとならうと觀察せられる。

然るに錫及び護謨はこれと立場を異にし、主要需要國が英領なる關係上、鐵道運搬によりて容易に英領に達し得ること並びに戰爭目的遂行上、これ等が重要物資なることよりして等しく强氣を示し、錫の如きは殊に高騰氣配をさへ示してをる。

參考として歐洲戰亂勃發直前の昨年八月三十日及び歐洲戰亂勃發後の本年二月三日同四月八日、十五日の**タイ**國物價比較表を揭ぐれば左の如くである。

一、泰國主要物產價格表

商品名及單位（ピクル）	昨年八月卅日	本年二月三日	本年四月八日	本年四月十五日
鹽	〇・八〇銖	〇・七五銖	〇・八〇銖	〇・八〇銖
白胡椒	一三・〇〇〃	二三・〇〇〃	二三・〇〇〃	二二・〇〇〃
黑胡椒	一〇・〇〇〃	一六・〇〇〃	一三・〇〇〃	一三・〇〇〃
實附棉	二七・〇〇〃	二七・〇〇〃	二八・〇〇〃	二八・〇〇〃
實無棉	八・五〇〃	八・五〇〃	九・二五〃	九・二五〃

コラ	四・五〇〃	四・五〇〃	五・二五〃	五・二五〃
ステイックラック	六・五〇〃	九・〇〇〃	一一・〇〇〃	一一・〇〇〃
乾牛皮	一四・〇〇〃	二三・〇〇〃	三二・〇〇〃	三二・〇〇〃
鹽漬牛皮	一〇・〇〇〃	一八・〇〇〃	二〇・〇〇〃	二〇・〇〇〃
鹽漬水牛皮	六・〇〇〃	一五・〇〇〃	九・〇〇〃	九・〇〇〃
米	三・八五〃	四・七〇〃	四・三五〃	四・三五〃
護謨	三七・〇新嘉坡弗	四八・二新嘉坡弗	四八・三新嘉坡弗	四九・三〇新嘉坡弗
錫	一一四・二五〃	一二八・五〇〃	一一二・〇〇〃	一二六・七五〃

二、タイ國主要輸入品價格表

商品名及單位	昨年八月卅日	本年二月三日	本年四月八日	本年四月十五日
水鶏印小麥粉(袋)	三・七五銖	四・五八銖	四・三〇銖	四・五五銖
綿絲二〇番(俵)	一五八・〇〇〃	一〇〇・〇〇〃	一八五・〇〇〃	一八五・〇〇〃
ラード(ピクル)	一八・五〇〃	二五・〇〇〃	二四・〇〇〃	二四・〇〇〃
麻袋(百枚)	二二・五〇〃	四三・五〇〃	三三・〇〇〃	三四・五〇〃
圓鐵(ピクル)	八・七五〃	一五・〇〇〃	一四・五〇〃	一五・五〇〃
亞鉛引鐵板(ピクル)	一四・五〇〃	二二・〇〇〃	二〇・五〇〃	二一・〇〇〃
ワイヤネール(四八封度函)	三・八〇〃	七・五〇〃	六・七五〃	七・五〇〃
綿タオル(打)	一・八〇〃	一・八〇〃	一・五〇〃	一・五〇〃

本來ならばこの丁抹、諾威兩船の異變によつて少くとも歐洲品の輸入激減は豫想し得るものなる故、一般輸入品の値上りは當然來るべき筈なるが、現在に於ける同市場の過剰ストックはこれを遮り、容易には急激なる騰貴を示し得ぬ實情である。

即ち雜貨は今後約半ケ年の需要を充すに足るストックを有し、自轉車も亦約半ケ年の需要を充すストックあり、亞鉛引鐵板八千函、綿布二萬俵何れも過剰ストックがある。

しかも需要期より見て既にオフ、シーズンに入りつゝあるにより、假令將來の見越は強氣を示すも實取引に於ては一向急激なる騰勢を示さず、九月の戰爭勃發當時より何れも低廉にて、唯市況が先月頃より強氣に變じ、幾分値段が上向きたるに過ぎない。

尤も今日迄の處、諾威船に對する英國の處置並びに諾威船自體の動向如何に就きて確たる報なく、從つてタイ國貿易に關する今後の見透しも亦適確には察知し得ぬが、尠くとも歐洲貨物の當國向け輸出の減退のみは豫想し得るものにて、歐洲品を競爭品とする本邦商品に關する限り今後非常なる好影響を受けるであらう。

（貿易組合中央會第二部情報課發表）

雜苑

○スコータイの文化

昭和十五年一月六日文部省文藝局に於けるルアング・ウイチツト・ワツタカーン氏の講演要旨が三月プラチヤー・チヤート紙に連載されたるが、以下は其の概譯である。

來會の閣下及諸君

立憲革命以來、政府は國家の進運と發達とに鋭意力を注いで居る。そこで當局は後世の伸展に關して常に心を碎いてゐるが、文化に關心を持てば持つ程、吾等は既往の文化發展の沿革を知り度くなるのである。私は屢々或人から『文化とは如何なるものか』と言ふ質問を受けた。私は之に答へて『他日、機會あらば、この疑問を解決する』と言ふて居たが、この疑問を何處で解決してよいか迷つてゐた所、今度機熟して文藝局長から私に講演を依囑して來たのでこの機會に於て豫てから懸案中の文化問題を解決しようと思ふ。

實際、斯かる問題は大した難しいことではない。文化と言ふことは何にも深い意味はなく、吾等の知つてゐる通り進歩、發達、發展と言ふことで、一國の文化とは國家の偉大なる進歩發達と言ふことである。而して、この進歩發達の結果、新しく何を生ぜしめたか又何を膨脹せしめたか。吾人は一人を捉へて彼氏の現在生活が十年、二十年以前と餘り變らないならば彼氏を文化人なりと言ふことが出來ない。一國にしても同樣である。既往に比して進歩を表したものなく、又一向膨脹した所がないならば文化とは言へない。斯かる場合は過去の文化と現在の文化との差違を明瞭に知ることが出來、又文化の意義に就き私の考へ通りに明言することが出來る。私は外國の文化に關しては茲に贅言する必要はない。我國の事に就てのみ考察して見よう。然らば我國の進歩せる點、退歩せる點が判斷出來よう。吾人は北方パヤップ地方を旅行すると吾々同胞聚落の家が整然として並び、塀垣で圍繞されてゐるのが見られる。家屋の構造もガツチリして建てられて金持に非ずとも瓦葺の屋根で作られてゐる。貧家は家屋小さく共、何處かに建築技術の優秀性を發揮してゐる。それを見て進歩した、又は文化有りと稱し得る。北泰地方では男女の服裝がキチンとして如何なる貧乏人でも衣服を纏ひ美服を有してゐる。彼等は自ら麻を栽培し、收穫し、紡織し、裁縫し、着用する。街路などに裸體で遊んでゐる子供を稀に見受けるが極めて尠い。若し吾人が農家等へ行つて見ると其の家は氣持よく整頓してあり、飲料水を求めると貯水場から汲んで來り欣然として飲まして呉れる。それは住宅と別に離れて獨立家屋になつてゐる。彼等は水を大切にし清潔を保つてゐる。又隣人と親しく交はり互に扶け合ふてゐる。斯かる事も文化の一表徴と謂ふてもよからう。文化は重要なることであつて、強いて之を表現化すべきものでもなく、又、世界に誇るべきものでもない。文化なるものが國民の精神に滲透して居れば、その國家の進歩、發達、發展と共に吾人の精神を作興し向上せしめる。然らずんば、吾人の精神は墮落し、衰退するかもしれぬ。吾人は文化を固守し奮勵努力せねばならぬ。吾人は單に人間としての生活のみにては不充分である。吾人は進歩發展した人間生活を營み世の推移と共に膨脹せねばならぬ。文化と言ふことは偉大なる文字であつて若し一般に曰ふ文化の意義を講述するとせば一席の會合にては語り盡せぬ。尠くとも五回から六回に亘りて講述せねばならぬ。今回の講演には『スコータイ文化』丈に留

めて置かう。『スコータイ文化』丈に就て語つても吾人の祖先は如何にして後世の子孫のために文化の土臺を作つて呉れたかを感謝せねばなるまい。是から『スコータイ文化』に就き概説して見よう。

スコータイ文化の話は種々な角度から容易に説述することが出來る。それは今日まで傳來せる事蹟や遺物に據つて知ることが出來る。先づ私は諸君をスコータイ文化の宣揚者たるポークン・ラム・カムヘン大王（西暦一二七五——一三一五年在位？）の遺蹟に御案内して解説するものと假想して貰ひ度い。

ポークン・ラム・カムヘン大王は我國文化の發展に偉大なる貢獻をなされた方である。例へばソワンカロークからスコータイ迄のプラルアン街路を築造されたが、其の後、更に之をカムペンペツト迄延長完成した。現在でも其の當時の街路の遺蹟が殘存してゐる。堅固に築造されてゐることは驚嘆の外はない。玆に驚くべきことは、この街路は幅廣く今日の街路と同じくソワンカロークからカムペンペツト迄の距離は一八五粁であるが昔時のプラルアン街はそれから更に屈折して二五〇粁迄延長してゐた。このプラルアン街路の築造工事に十年餘を費したが、この計算に從へば大王は一年平均二五粁工事を進捗したことになる。若し其の後の吾等の祖先が繼續して工事を進めて行つたならば六百二十年間に一五、五〇〇粁の街路が完成される勘定である。諸君この事實に關して考察を願度い。我が國現在の有する道路は鐵道を含めて四、〇〇〇粁位ではないか、大變な相違である。

ポークン・ラムカムヘン大王時代に築造した遺蹟を見ると驚嘆に値する程の壯大なものである。例へばシー・ション寺院の壁は厚く壁と壁との間に通路があつて人が通つて二階、階下に昇降することが出來る。私はこのやうな壯大なる遺蹟は何處に於ても見たことはない。我が**タイ**國がスコータイ地方を領有してからカメン族地方に造營されてある堂塔其の他をポークン・ラム・カムヘン大王は參考とせられて新たに**タイ**式寺院堂塔を建立された。御覽の通り代表的建築物マハー・ターツ寺院大塔の四角錐形又はシー・シュン寺院の變つた構造に氣が附くであらう。斯かる方式を考案模倣したものが嘗て無かつた。

ポークン・ラム・カムヘン大王時代の製作佛像には三種ある。一は經行（歩行）像、二は立像、三は降魔像にて其内、最も多く發見されるのは經行像であつて、一般に言はれる巡化像である。これは吾人に『歩けよ、前進せよ』と言ふことを教訓さるゝもので、この經行像はスコータイの何處でも見ることが出來る。其の外ソワンカロークやカムペンペツトの佛像には大型浮彫像も見られる。後世の人々は經行像を見て飛行してゐる象徴だと考へて居り、カムペツトでは浮彫經行像を浮彫飛行像と稱してゐる。ポークン・ラム・カムヘン大王は何故に多くの經行像を製作されたのかその理由は判明しないが、大王は靜座して居ることの出來ぬ方であつた。東奔西走、席温まる暇なく常に活動されて國運の隆昌を圖られた方であつた。故に多數の經行像を作られたのも民衆をして強く奮勵努力せしめんとする思召からであらうかと考察される。經行像に次で立像も相當に製作された。それは吾人に『靜座して安逸を貪る勿れ』と云ふことを訓へられたものと察せらる。座像も多少製作されたが皆降魔像である。『戰に勝てよ』と云ふことを訓へられてゐる。人間は生れた以上、種々の困難に遭遇し、運命に翻弄される場合が多い。殊に國家建設の場合は大困難が伴ふものである。降魔像は進んで退かない即ち勇猛精進不退轉と云ふことを象徴してゐる。其の外、靜寂像と云ふのがスコータイに見られるが、それはポークン・ラム・カムヘン大王以降ズツと後世の製作であることが想像される。

ポークン・ラム・カムヘン大王は**タイ**文字を創案された。一般に謂ふ原始**タイ**語文字である。大王は母子音を線の上に書入れさせた。大王は西洋文字、書方を御存知ない筈であるが、この原始**タイ**語を左より右へ横書風に創められたことは驚くべきことである。或は大王はモーン、緬甸、カメン文字を參考としてそれに工夫を凝らし改良を加へ、

容易に書き、容易に讀み、容易に記憶し得るやうに考案されたのかも知れぬ。若し、現在までも原始**タイ**文字を使用したならばタイ・ヤイー、モーン、緬甸、カメン族が互に意志を通じ得たことであらう。然らばこの文字は如何に各民族の間に役立つたことであらうと思はれる。我國の教育がもつと早く發達してゐたならば、この原始**タイ**語を採用したことであらう。岩石の擊刻してある原始**タイ**文字の拓本は國立圖書館に所藏されてある。この拓本に因りてポークン・ラム・カムヘン大王時代に築いた文化は數多あることが立證されてゐる。例へば文中『川に魚あり、田に米あり、檳榔樹の實を栽培せよ、椰子を栽培せよ、檳榔樹の森も繁茂し、果樹林も繁茂してゐる。國の中央部に點々たる井戸あり清冽なる水湧出し飲料に適す』云々の刻文がある。プラルアング王時代のスコータイ中央部は河川から相當距つてゐた模樣であつたが、水飢饉と云ふことなく、若し水が缺乏すれば井戸を掘り良水を得てゐた。尚ほ、コーン河の水を飲用してゐた樣である。この時代の**タイ**民のことを考へて見ると鋭く勇ましく強大なる勢力を有してゐた。敵の群を征服し廣大なる國土を領有してゐた。

次にスコータイの面積につき說述しやう。スコータイの東はウエンジヤンに接し、南の方はプライカープ・サムツト、馬來に接續し西はベンカル灣に臨み、北の方はルアン・プラバーングに界してゐる。

スコータイの地方名にドワイ・ルワック又はドワイ・ケと云ふ名稱が澤山ある。ドワイ・ルワックと云ふ語は『賢い』と謂ふ意味で、ドワイ・ケと云ふ語は『努力』と云ふ意味である。之を以て其の時代のスコータイ國民は如何に勤勉で賢明であつたかが想像され、又廣大なる版圖を有してゐたかゞ解る。

諸君はマカトと云ふ言葉を聞かれたことであらう。タイ・ヤイー族（我々の知れるモーン族ではない）出身で後に王族にまで立身出世してモーン族を統治したマカド物語中に『或る象小屋に一人の少年が象の見張番として住んでゐた。或日ポークン・ラム・カムヘン大王が象の叡覽に行幸された其の時、一枚の貨幣が地面に落ちて居たので、大王はマカトに拾はせた。マカトは大王の指圖によつて拾つたので、將來この貨幣によつて幸運を得らるべきを豫感したマカトはその貨幣を持つて菜の種子を買ひに行つた。種子店の主人は如何にして種子を量つて賣渡さうかと迷つた。何となれば種子の代償としては餘りにも多額の貨幣であつたからである。マカトは主人に一本の指を種子の中に差込ませ、而して主人の指先に附着した丈の種子で宜敷しいと言ふた。主人もそれを承知した』云々とあるが、この物語中『マカトが指に唾をつけ而して種子の中に差込んで指一面に種子を附着せしめた』云々と解釋する者もあるが、マカトは左樣な横着な少年ではなかつた。否「主人の指に附着した五、六粒の種子を持つて歸り、それを蒔いた所がよく芽生へて成長した」とも傳へられてゐる再びポークン・ラム・カムヘン大王が御來臨になつた。其の時マカトは蒔いた種子から生じた菜を大王に獻上して「これは陛下から頂いた貨幣に依つて求めた種子から生じた菜であります」と申上げた。大王はマカトの正直にして平素の撓まざる勤勉努力を嘉みせられ、彼れを象舍より王宮に伴れ行かれた。マカトは宮内官として出世して後に王女を娶りカメンの國王に封ぜられた

以上は物語の一節であるが、象小舍の少年番人が僅に菜を大王に獻上した心懸けが奇緣となり遂に國王の位に登つたことは大王の如何に進歩發達を軫念せられたかが立證される。大王の事蹟としては數多あるがその一節として土地を開拓して街衢を造營することを好まれ、人力、象力、馬力、物質を送り又は侍臣を遣はして土木を監督せしめられた今日殘存せる彫刻の一部分に音樂の事が刻されてゐる。之に據つて考察するにスコータイ文化は音樂藝術が著しく發達してゐた事が解る。古スコータイ民は克く働き克く樂んで、決して安逸を貪ることをせず、勤勉努力の生活を續けてゐた。私はスコータイにて或る高官に逢ふたとき、私は斯かることを語つた。『古スコータイ農民は作物の收穫後

に女子は着物を織り、男子は鉦を叩く。彼等は仕事が終ても横臥してゐない事を證してゐる。これがボークン・ラム・カムヘン大王時代の俤である』と。

回顧、現代の世相を見るとボークン・ラム・カムヘン時代の文化に比して遜色あるかも知れぬ。私は之れ以上現代文化を批評したくない。

次にラマ第四世モンクット帝のプラルアング地方御巡幸の際の御視察を謹述して見よう。

『我が**タイ**國は新民族でもなければ又野蠻族でもない。英語の所謂アンシビライズドでもない。我が**タイ**國は往古より文化發達し來り、その點に於ては諸外國の文化に比して決して肩身狹く感する必要はない。現代人を標準とせず古人を標準として文化の尺度を考察して貰ひ度い。プラルアング時代の人々は現代人より數段技能が進んでゐた。泰國古代史を讀んでゐると大いに考へさせられる。如何に古代の吾等祖先は鋭敏であり、勤勉であつたか、如何に偉大なる事業を遂行したるか了解出來よう。現代人は祖先の折角築き上げたる業蹟を破壞し、衰亡せしめたに過ぎない。それは餘りにも新文明に執着し過ぎるからである。廢れた古代習慣で今日、復活遵守せねばならぬものがドノ位、澤山あるか解らぬ。外國の習慣を人が眞似るから自分も之に附和雷同するとは丸で兒戯に類するではないか』。斯くの如く皇帝は仰せられたが諸君も御說御尤と頷かれたであらう。六百年前に建設されたプラルアング道路を今日、何等改良延長された事なく唯、プラ・ルタイ王時代に多少修理を加へた丈である。現今は廢墟と化し何等實用に適しない。ボークン・ラム・カムヘン大王時代の建築樣式は後から改善を加へたものでなく純スコータイ式として今日に遺存してゐる。殘存物としては寺塔が多い。プラルアング王時代に至りて塔を建立することが盛んになつたがカメン式の模倣である。堂塔の造營は印度に於て起り其樣式を**タイ**國に輸入しそれを其の儘我國に於て模倣し禮拜してゐる。

ボークン・ラム・カムヘン大王は塔に就ては御造詣が深かつた。スコータイ時代にはカメン式寺塔が到る所建立されてゐたが大王は之を殆ど泰式に改めらた。今日遺存する純泰式代表的のものとしては今日ワット・マハーターツ寺院、ワット・シーシュン寺院に於て見ることが出來る。ボークン・ラム・カムヘン大王以後の歴代諸王はカメン式を好み復興されたので、大王の折角考案された泰式建築は廢れた。かるが故にカメン式寺塔が著名となつた。

以上は寺塔建築の事に關しての話であるが次に佛像造立樣式に就き繰返し考察を試みよう。

ボークン・ラム・カムヘン大王時代の佛像は前述の如く經行像、降魔像が主として造立されたが、大王崩御後は寶冠佛及び涅槃佛像の造立が盛んとなり經行像、降魔像の製作は一時廢れた。然るにスコータイ第五世タンマ・ラーチヤ・ルタイ（一三四七——七〇年）の時、ボークン・ラム・カムヘン大王時代の佛像樣式が再興した。

或る佛蘭西學者の研究に據ればボークン・ラム・カムヘン大王以前の時代にも泰文字が使用されてゐたにも不拘、大王の時に到りて所謂ラーイ・スー・タイと稱する新造文字を作つた。これは將來共通言語によりてビルマ、カメン、タイ民族は互に往來親睦を圖らしめんが爲の叡慮かと思はれる。このラーイ・スー・タイ文字はビルマ、カメン、タイの何れの民族にも容易に了解出來る樣に作られて居たので、今日迄、大王の新造語が使用されてゐたならば、ビルマ、カメン、タイと謂ふ樣に異つた言語を學ぶ必要がなくなり、タイ語に依つて民族が結合し凡ゆる點に於て至大なる便益を得たことであらう。然るに是等が各々異つた言語に分れたのは外國文化の影響である。

北泰地方に遺存する最も古き第一號岩石には佛曆一八三五年の數字が誌されてあり、第二、第三號岩石はそれから各六一年の間を措いて誌されてある。年號數字が新しくなるに從つて彫刻文字體も變化してゐるが、各時代岩石刻文中にラーイ・スー・タイ文字が多少使用されてゐるがカメン文である。然し、母子音結合上、母音が子音の上に來り、

下に置かれたりして、カメン文字に大分變化をなしてゐる。第四號岩石には佛曆一九一五年の刻文が誌され、第五號岩石は前號岩石より十一年後、卽ち一九二六年の數字が誌されてゐてカメン系モーン文字である。而して泰語譯文が併刻してある。第六號岩石には其の後間もなく彫刻されたものらしいが純カメン文字で誌されてあつて、この刻文中にはラーイ・スー・タイ文字や**タイ**文字は使用されてゐない。爾來、**タイ**文字は段々と變化して來てゐる。然し乍ら、現存岩石刻文を檢討するに**タイ**文字は相當古くから使用されてゐた樣に思はれる。敬語などになるとカメン文字を用ひてある。ラマ第四世は「外國の眞似をするから折角の國風を破壞するのだ、殊に之がためにラーイ・スー・タイ文字の廢絕したるは遺憾の極だ」と仰せられてゐる。

岩石刻文を見ると「スコータイ時代は五穀豐饒、水利良く、淸冽の飲料水に惠まる」云々誌されて居るが、現代はその反對にスコータイ地方は荒野と化し旱魃に惱まされてゐると謂はる。プラルアング王時代のスコータイ民は水飢饉と云ふことを知らなかつた。水がなければ井戸を掘り、水溜を造る。住宅の周圍には溝渠を掘り何時も水を湛へて置いた。現代に於ても其の遺蹟を見ることが出來る。其の後、繼續して手入修繕をすることがなかつた爲、堀や水溜が淺くなり數度の旱魃に見舞はれ住民は其の地を棄てゝ新しい地方に移住した。諸君も旅行されて御覽の事と思ふがスコータイの城壁は三重になつてゐるがこれはポークン・ラム・カムヘン大王の時の造營である。決して大王以後の築造ではない。岩石刻文によると「城壁は三重となり周圍六千八百米あり」と誌されてゐる。ラマ第四世は「當時の築城術は現代よりも進步し、或は今日の兵力を以てしても容易にスコータイ城を攻陷することは困難であらう」と。仰せられてゐる。スコータイ時代以降は斯かる堅城は築城されなかつた。何となれば住民は緬甸軍の西方よりの侵入により、主として東部に避難し、彼處此處と放浪移動した。メナム川はあれども防敵には何等役に立たなかつた。後

世アユチヤがビルマ軍のために二回も攻圍されたが川中の島であつたにも拘はらず、落城の憂目を見た。

古代の吾等祖先は勤勉であり、勇敢であり敵を驅逐する力を有し、國土も廣く、象も多數保有した事は岩石の刻文に據りて知ることが出來る。然るに今日我等の口から斯かることが廣言出來なくなつた。マカトの栄種物語も忘れてしまつた。吾等は異國で作つた食料にて生活してゐる。終には政府は國民生活擁護のために商店を開けと云ふ奬勵までするやうになつた。斯かることになつたのは國民大衆は都會に住み悅樂を求めたいと云ふ念から折角の祖先以來の鄕土を棄てゝ都會へ都會へと集中せんとする弊から生じたのである。これでは國威の發揚も個人の家庭安定も困難である。現代人はあまりにも浮調子である。スコータイ時代の民は前述の如く自給自足の生活をして太平を樂んでゐた男子は鍛冶工をなし女子は自紡自織した。

私はスコータイ王系に就て略述しよう。第一世はポークン・シー・インタラティット（佛曆一八〇〇年卽位——崩御年不明）、第二世ポークン・バンムアング（第一世の王子卽位年代不明——一八二二年崩御）、第一、第二世兩王在位合計二十年、第三世はポークン・ラム・カムヘン大王（一八二一——六一年）にて在位四十年、第四世ポークン・ラム・カムヘン王子ピヤ・ルタイ（一八五一——九七年）在位四十六年、第五世ピヤ・タムマラーチヤ・ルタイ（タイ語名）又はプラパート・ガモーン・テンアン・シースリヤボング・ラム・マハー・タムマラーチヤ・ピラート（カメン語名）にてピヤ・ルタイ王子（一八九七——一九一九年）在位二十二年、第六世ピヤ・サイ・ルタイは第五世の王子にて卽位間もなくシー・アユチヤの屬國王と轉落した。

スコータイ文化の衰亡理由はピヤ・ルタイ以後の諸王はカメン文化を大いに採用して萬般カメン式のものを模倣した。祖先代々カメンから獨立してゐることを考へずに**タイ**をカメンの屬國であるかの如き禮を執つた。カメン式佛塔

を建立しカメン語にて誦經し禮拜した。更に吾人の一考を要すべきは獨立**タイ**國民で而かも高官名士であり乍ら、カメン族から位階を授けられて得意然としてゐた。第二世ポークン・バンムアングの如きはカメンの封冊を受けガモーン・テンアン・シー・インタラパチン・タラティットと稱した。然るに第三世ポークン・ラム・カムヘン大王時代の岩石彫刻にガモーン・テンアンと謂ふ言葉は見當らない。スコータイ王國はポークン・シー・インタラティット、ポークン・バンムアング、ポークン・ラム・カムヘン、ピヤ・ルタイ、ピヤ・タムマラーチヤ・ルタイ、ピヤ・サイ・ルタイの六代、百十數年を經過したが第四世ピヤ・ルタイ（タムマラーチヤ二世）王の如きはガモーン・テンアンなる稱號を使用され、プラパート・ガモーンテンアン・シー・スリヤボング・ラム・マハー・タムマラーチヤ・テイーラート・プラボラマピタイ・ガモーン・テンアンと申された。第四岩石彫刻文によると第四世は常に自らガモーン・テンアンと呼び慣はされて居た。餘りにもカメン族に阿諛し過ぎるかの觀があつた。吾人はピヤ・ルタイ王の人格に就き香ばしからぬ點はないでもないが王の事蹟を考察すると大體に於て善政を施して居られた。**タイ**族として最初の大著述たるタライブーム・プラルアングと稱する典籍である。而して王は精勵恪勤にて佛教學に造詣深かつた。然し乍ら王はカメンを崇拜し之を模範となし國務を遂行してゐた。然し唯、遺憾なるはポークン・ラム・カムヘン大王の折角創設せられて純正スコータイ文化を破壞して仕舞つたことである。これが因となりスコータイの勢力が凋落し遂にアユチヤのプラ・チヤオ・ウートンの勢力下に制壓されるやうになつた。佛曆一九二一年からスコータイ朝は消滅してシー・アユチヤ朝が勃興したが、アユチヤ朝の初期國王はスコータイ朝に劣らないカメン式を尊重するやうになつた。ソムデットと言ふ稱號はスコータイ時代にはなかつたがアユチヤ朝に至つてカメン族から引繼いで**タイ**王と言ふ意味に用ふることになつた。是れはカメン語である。アユチヤ朝は三十三代繼續したが其の內英主賢王と稱するは左の五君主であつた。卽ち

（一）第九代、ソムデット・プラボロム・トライ・ローカナート（一四四八——八八年）

（二）第十四代、ソムデット・プラチヤイ・ラーチヤ・ティラート（一五三四——四六年）

（三）第二十代、ソムデット・プラ・ナレー・ソワン（一五九〇——一六〇五年）

（四）第二十一代、ソムデット・プラ・エーカ・トサロット（一六〇五——一〇年）

（五）第二十八代、ソムデット・プラナライ（一六五七——八八年）

約言すればアユチヤ朝の六分の一の諸王は善政を布かれ五代續いて衰へると一代興ると謂ふ割合である。斯かることから推論すれば國運を隆昌させるよりも衰運を挽回することの方が多事であつたと言ふことになる。アユチヤ五代の英主は國威の發揚に粉骨碎身されソムデット・プラナライ王の如きは內亂を鎭定すると崩御された。

アユチヤ朝四一六年間は何れかと言へば進步しなかつた。プラルアング街やスコータイ府の遺蹟すら搜索に困難となつた。アユチヤ朝はスコータイ朝に比べて何ら國運の振興も發展もしなかつた樣で、今日、當時の文化的遺蹟の見るべきものはない。却てポークン・ラム・カムヘン大王時代に比して文化の程度は遙かに劣つて居た。四一六年の長い歲月を徒らに空過したことは遺憾至極のことである。

然し**タイ**國の國運は惠まれてゐる。前記、英主が出現しなかつたならば**タイ**國は疾くに滅亡したであらう。吾等は緬甸の來襲に遭ふて國力疲弊したと考へては飛んだ誤解である。事實は緬甸軍の來襲の際、奮戰健鬪したが退却するや戰の苦難を忘れ安逸に耽り、次の來襲を豫想せず、一向、防備を嚴重にしなかつた。然しソムデット・プラナレー・ソワン王やソムデット・プラナライ王でも緬甸の勢力を抑へて數百年間の國家安泰の基を定めた。アユチヤ王朝

の滅亡は敵の侵略に因つたものではなく、餘りにも太平の夢を貪り過ぎた結果である。前記賢王英主を奉戴したが一方、第三十代ブラチヤオ・スア（一七〇三——〇九年）、第三十一代ブラチヤオ・タイサ（一七〇九——三三年）、第三十二代ボロモコツト（一七三三——五八年）等の庸王相次で即位したが、遂に緬甸の入寇を防ぐ能はず、王朝を滅亡に至らしめた。

以上はスコータイ文化に就き概説したが、次にランナタイ（現今のチエングマイ）文化に關し語らうと思ふが、ランナタイとスコータイとは善隣國であつた。從つて文化も兩國共通のものであつた。吾等の知れる通りポークン・ラム・カムヘン大王とランナタイのメンラーイ王とは親友であつた。大王は版圖擴張のときでもメンラーイ王領を侵さなかつた。ランナタイ境民とスコータイ境民とは仲善く、互に商業を開いてゐた。チエングマイ府建設のときメンラーイ王は態々ポークン・ラムヘン大王を屈請して相談役と致された。故にスコータイ文化とランナタイ文化とは同一のものである。即でスコータイ文化を知るにはランナタイ文化も共に研究せねばならぬ。此點に就ては現存ランナタイ文化はスコータイ文化研究者に取りて非常なる便宜を與へてゐる。今日、殘存するランナタイ文化はカメンの影響を受けては居るが昔のスコータイ文化即ち純正**タイ**文化を滅却する程までには到つてゐない。

吾等はスコータイ文化を研究するに當り、現地に於ける遺蹟について充分なる考察を遂ぐる能はざるときはランナタイ（チエングマイ）に於て推定することが出來る。スコータイ藝術で今日遺存せぬものでもランナタイに於て瞭然と見ることが出來る。

古へのランナタイの民は音樂、舞踊、歌謠を職業として修めず、趣味嗜好から學び即ち生活に潤ひをつけるために學んだ。

文化としての音樂は是非學ばねばならぬ。ムッソリニーでもバイオリンを練習し、ヒットラーでも自分は音樂が好きだと言ふてゐる。我が泰國政府でも國立音樂學校を盤谷に建設中である。而してその卒業生は「如何なる仕事をするか」と言ふやうな質問を受けることがある。或は「この種の學校を建設すれば國家は音樂家で溢れるではないか」と言ふやうな珍妙な質問を受ける。斯かる質問の根據は音樂を以て生活の糧にせんとするからである。古への人々は音樂を以て高尚なる情操を涵養せんがための修業であつた事を回顧して、古代人の心の奥ゆかしさに感服する。

古代文化の片鱗は今日まで傳承し來れる舞踊や歌謠で窺ひ知ることが出來る。由て古式舞踊や歌謠を知つて置くことは古代精神を知る上に大切な要素で、恰も身體を健全ならしめるためには運動が必要であると同樣である。

聽衆諸君は私の「文化とは如何なるものか」と云ふ質問に對して容易く應答出來得るであらう。若も精しく答へられ度いならば文化の意義を系統的に略述を試みて見よう。即ち、民族が文化に達する慣習道程につき類別すれば四段階を有する。曰く一、建設。二、禮儀。三、進歩。四、勤勉。

1、建設と破壞　文化民族は建設に向つて邁進する。例へばマカトの如き一枚の貨幣で野菜の種を蒔き栽培する。ポークン・ラム・カムヘン大王時代に川に魚を養殖し、田に稻を植え、畑に果樹を栽培した。或は莊麗なる寺院を建立する。即ちシー・シュン寺院の造營や幅廣き街路の築造等で古代文化建設には其の時代の民衆は克く協力した。文化を建設せざる所は滅亡して行く事が多い。それは建設をせずして在來のものを消費して行くからである。亦、嫉み心を以て善良の人々の心を傷ふ。靜寂をすてゝ喧騷を好む、惡しきことに眼を開き、善きことには眼を閉ぢる。此等の惡癖のある所、その國家の衰亡を意味して居るが、若し之を初期に矯正すれば滅亡を喰止めることが出來る。

2、禮儀と粗暴　文化民族は禮儀を好む。國家の整然としてゐるのを好み、身裝のキチンとするのを好む。この事

は幸福と貧乏とより出發するものではない。貧乏人でもキチンとした身裝が出來る。寒い國の貧乏人は混凝土の家に棲んでゐる。混凝土の家では寒さに堪へぬと言ふことであれば民衆は精を出して家を建築する。タンキヤ地方や南支國境に近い所は皆、混凝土建の住宅に棲み、住民の身裝は整然として居り、裸體のものを見ない。これは富貴であるからではない。彼等**タイ**族は吾等よりも貧困である。而して吾々よりも多額に納稅する。若し豚を四頭でも飼養し居らば富裕だと稱してゐる。或る地方人が斯う云ふことを言ふた。『この家の分家は幾十軒かあるが、その分家には富貴のものもあれば貧乏人もある。然し、住宅が狹少であつても屋内を奇麗に整頓し、身裝がキチンとしてゐる』と。これこそ文化の象徴である。美術を好み建築に心を寄せ、住宅又は食物に心を慰めることに浮身を窶すことは學者の謂ふ現代文化人である。若し、キチンとしたことを好まないならば、それは文化より非文化への逆轉である。

3、進歩と退歩　進歩又は發達は古へよりの道程である。古代の國王は王子に象や馬を與へて遠征し新しく國を建設させる。**タイ**の風俗として娘や息子は結婚した後は父母から離れて自分等の力で住居を設定する。倉庫を造つて子供等のために要する費用や、物品や或は結婚に使用した道具を貯藏する。これは生活進展の第一歩である。何れの國家でも都會人が地方に進出して住居を設定すればその國は膨脹して行く。之に反し現代の如く田舍の者が都會へ都會へと殺倒することは餘り香ばしくない。これは、その國が衰へ行く前提であると見做してもよい。

都會と地方との民衆の動きに就き政府も注目しなければならぬ。而して地方人が成るべく都會へ來ぬやうにし、都會人が成る可く地方に進出するやうにしなければならぬ。之が進歩と退歩との境目である。

4、勤勉と怠惰　現代人は兎角、怠惰に流れ易い。之は西洋流の歡樂が流入し民衆に惡影響を與へてゐる。今やスコータイ時代の傳統的勤勉精神を失ひつゝある。今こして自覺肅正せずんば由々敷しき大事を惹起するであらう。

○泰國に於ける華僑の情勢（其一）

天田六郎

一、序說

全世界に亘つて散住する華僑は八百萬人を超え、此の內約六百萬人が南洋に居住すると謂はれて居る。就中**タイ**國は特に華僑發展の跡顯著のものがある、支那國民政府僑務委員會の發表[註]に據れば**タイ**國に於ける華僑の數は實に二百五十萬にして、同國の全人口の二割一分七厘に當つて居る。其の他の統計によるも、何れも**タイ**國は南洋地方に於て最も多數の華僑が在留する地方となつて居る。從て南洋の華僑を語らんとせば先づ**タイ**國の華僑を識る必要がある。

註　南洋華僑數（國民政府僑務委員會一九三四年發表）

	在住華僑數	全人口	全人口に對する華僑の百分率
タイ	二、五〇〇、〇〇〇人	一一、五〇六、〇〇〇人	二一・七
英領馬來	一、七〇九、〇〇〇	四、三八五、〇〇〇	三九・〇
蘭領東印度	一、〇九八、九二七	六〇、七二七、〇〇〇	一・八
佛領印度支那	三二六、〇〇〇	二〇、二二〇、〇〇〇	二・四

比律賓	八三、九九三	一三、〇九九、四〇五	〇・六
英領北ボルネオ	四七、七九九	二七〇、二二五	一七・七

林惠祥の著、支那民族史に據れば**タイ**國人（泰人）の祖は西南支那の地方に先住した僰撣にして、此の民族が南下して印度支那半島方面に據つたものが所謂泰撣であり、唐時代强大なる南詔國を建設したものは此の泰撣である。泰撣と言ふのは南下した僰撣が自ら泰と稱したに因るものであつて別の民族の名ではないと言つて居る。故に今日の**タイ**人は泰撣であり、復た僰撣であるから結局**タイ**國人とても一の華僑に外ならないとも言へる。從て支那で唱へらるゝ樣な意味で華僑を論するならば問題は**タイ**國全體の事に屬する。けれども現在謂ふ所の**タイ**國人と華僑との間には有ゆる點に於て確然たる相違線を持つて居るのであるから、この記述に於て取扱ふ在**タイ**國華僑の範圍は在**タイ**國の支那人と其の血を主流とする者の中で何等かの關係に於て本國支那と現に繫合を持つ者と言ふ程度に止めて置き度いと思ふ。

支那と**タイ**國との交通は可なり古い歷史を持つて居り其の起源は**タイ**建國當時に溯つて居る、**タイ**建國の古き時代の事跡は姑く措き近世**タイ**國の始と言ふべき十三世紀中葉、始めて近世**タイ**國の基礎として統一せられたスコータイ王朝當時には支那から建築技師、美術工、陶工等が多數渡來したと傳へられ、降つてアユチヤ王朝時代（西曆一三五〇——一七六七）にも暹羅王より屢々支那に進貢した事實が**タイ**歷史の上にも示され、又アユチヤ王朝滅亡直後約十數年間王權を握つたピヤタクシンは純粹の支那人だと傳へられて居る。同王朝時代には既に在留支那人數も多くなり爾來引續いて盤谷王朝の現時に至るまで同國の商業は全然支那人の掌る所である。當時、歐洲諸國人の商館は開設せられたけれども、支那、印度、爪哇の中間に位する**タイ**國と是等諸國との間の交易運輸に從事するものは殆ど支那人であつた。斯樣の次第であるから現在南洋地方中**タイ**國に在住する華僑の數の甚だ大なるは當然である。

元來支那人の**タイ**國に渡來した當初は多く男子に限られ、其の中でも土着永住したものも少くないのであるが、斯る場合彼等は**タイ**婦人と雜婚し其の子女は勿論渡來者たる彼等自身ですら支那人特有の適應性の爲めに全く**タイ**人化して仕舞ふ有樣であつた。故に**タイ**國の立場から見て、是等の人々を特に支那人として特別の取扱をなす必要もなく同國政府は同化政策を採り、彼等に國民待遇を與へたのである。此の政策は今日までの所成功であつたと言ひ得る、現在**タイ**人と支那人との混血兒にして高位高官に上れるものも亦少くない。而して是等の人々は實に立派なる**タイ**人であり、王室と國家に對して忠良なる**タイ**國民として何等不都合はなかつた。

然るに近來に至つて渡來支那人の色彩は漸次に變化し、之に伴つて在**タイ**國華僑の進出も亦一轉期を示して來た、支那本國に於ける政情の變化は渡來移民の內容に少なからざる影響を與へた。其の顯著なものは渡來支那婦人の增加せる事實である。從前、入泰華僑の多數は支那本國に殘留する家族を有する所謂出稼移民であつた。然るに渡來婦人の增加せる事實は卽ち最近入泰華僑が家族携帶の移住的移民の性質を多分に帶ぶるに至りしことを語るものである。此の傾向に伴ふて起る問題は二重國籍問題である。泰支二重國籍者たる永住者の數を著しく增加するの傾向は政治上社會上種々の問題を派生して**タイ**國政府としては看過出來ぬ問題となりつゝある。殊に本國支那と華僑との關係が意識的に密接化せらるゝ傾もある最近に於て然りである。

斯の如くにして從前は極めて平和且つ無害にして殊に一面**タイ**國の經濟發展の爲めには必要とすら考へられ、**タイ**國民の經濟福祉に貢獻する所、少なからざりし華僑を中心として今日**タイ**國に於ては種々なる國政上の重大問題を招來しつゝある。從つて同國政府としても支那移入民に對しては自然其の態度を變へざるを得なくなつた。斯る事情は

現在の革新政府成立前の舊政權時代に於ても既に表面に現はれ來り、華僑對象の施設が徐々に見られる樣になつたのである。偶々一九三二年政治革命が勃發し立憲代議政體を基礎とする新政府が樹立せられたのであるが、爾來同新政府は明かに民族國家主義を振り翳し、之に基く對華僑策を實施して居る。殊に政府の中心が軍部に握らるゝに至つた此の一、二年來支那人彈壓とも目せらるゝ施設が多いのである。

一方、今次日支事變に依つて皇軍の占據地は支那全土に亘り、而も南洋華僑の主なる出身地方も亦多く皇軍の占據する所となつて居る爲め、今や、之等華僑は特殊の位地に置かれることゝなつた。

此の際に於て南洋華僑に關し認識を有つことは當然必要なことゝ信じ、在**タイ**國華僑の現勢研究の一助として之に關する資料と見聞事項等を記述することにした。

二、華僑の人口

タイ國華僑の人口數を正確に示すことは不可能事である。同國に國勢調査が行はるゝに至つたのは極最近の事に屬するのみならず、華泰兩國間は無條約關係の下に在**タイ**國支那人は凡て**タイ**人と同一の待遇を與へられ、事實其の大多數は同化生活を營むで居り、其の子孫は**タイ**人なりや、將又支那人なりやの判然せざるものが多い。殊に又國籍法の關係上、二重國籍者甚だ多く、是等二重國籍者は**タイ**國側の立場からは無論**タイ**人として計上して居ると考へられる。一九三七年外國人登錄法制定に依り此の國籍歸屬の問題は表面解決された譯ではあるが、實際問題としては同國の支那人在住數を明確に示すことは依然困難であらうと考へられる。

外國人登錄法實施後の國勢調査は未だ行はれないが、一九二九——三〇年當時(註)の調査を基礎とせる同國統計表には在留支那人として四十四萬五千人を示して居るに過ぎない。左表は同統計に表はれた全國の人種別人口である。

タイ人	一九一九——二〇年	一九二九——三〇年
支那人	八、三九七、八六九人	一〇、四九三、三〇四人
印度人、馬來人	二六〇、一九四	四四五、二七四
緬甸人	四二一、四一九	三七九、六一八
東甫寨人	三一、九五七	三二、三八五
日本人	九三、〇九〇	六五、九八九
其他	二八五	二九五
計	二、五四一	八九、三四二
	九、二〇七、三五五	一一、五〇六、二〇七

註　年號は便宜上西暦を用ひた。**タイ**國に於て用ひる暦號は佛暦にして四月に始まり翌年の三月に終る。故に本記述中例へば一九三六——三七年とあるは一九三六年四月より翌一九三七年三月に至る一ヶ年である。

然るに在新嘉坡支那總領事の報告及國民政府農商部調査に基く支那側の發表には在**タイ**國支那人數を約百五十萬人(中國年鑑)と見積り、又前記國民政府僑務委員會の發表せるものに據れば二百五十萬人と推定せられ、**タイ**國を以て南洋方面に於て最も多數の支那人の在留する地方と稱して居る。更に東亞同文書院發行の新編支那年鑑は在**タイ**國華僑の數を

汕頭移民	九五〇、〇〇〇人
厦門移民	一二〇、〇〇〇

香港移民	一四〇、〇〇〇
計	一、二一〇、〇〇〇

として擧げて居る。

上述の如く諸種の統計區々にして其の何れが眞に近きか簡單に斷ずることは出來ないが、タイ國に一遊して盤谷市街の有樣を瞥見したものは、如何に多數の支那人が居住して居るかを直感するであらう。この事實は首府のみならず內地鐵道沿線の主要都市に於ても亦盤谷と同樣に支那人が盛に活躍して居る有樣を目擊する、新に開通した許りの鐵道の新設停車場の四邊は凡て支那人店舗のみと言つて可い。斯る實狀を見ては華僑の實數は餘程多數に上るべきことが容易に想像し得らるべく、前揭支那側の擧げた數字は其の儘には信憑し得ずとするも、タイ國政府の發表した統計は甚しく過少なりと斷言し得ると思はれる。殊に此の數字に見らるゝが如く印度人、馬來人よりも支那人の方が遙に少數であるが如きことは到底あり得ないのである。然らば果してどれ位の華僑が居住して居るだらうかと謂ふことは極めて難しい問題であるが、之を推定する材料として年々の支那移民に關する數字を檢して見よう。

タイ國入出國者數に關する統計が得られるのは一九〇〇年以後であるが、此の內一九〇〇年乃至一九〇六年間は左の通りにしてたゞ入出國者總數を揭ぐるに止まり、其の國籍別及入出國の系路を知ることは出來ない。

年度	入國數	出國數	入國が出國に超過する數
一九〇〇年	二六、四九九人 八八七	一七、二三〇人 八三四	九、二六九人 五三
一九〇一年	二九、七〇九 七七九	一九、二六六 四九七	一〇、四四三 二九二
一九〇二年	三五、六八四 九三六	一四、二八六 五九八	二一、三九八 三三八
一九〇三年	五三、三二二 一、〇三九	二六、九七七 八九〇	二六、三四五 一四九
一九〇四年	四三、一二四 一、〇九三	二六、六六九 九二九	一六、五五五 一六四
一九〇五年	四五、〇九三 一、三二三	三〇、〇八七 一、〇六四	一五、〇〇六 二五九
一九〇六年	六〇、一二〇 一、三八一	四〇、八二六 一、一九六	一九、二九四 一八五
合計	二九三、六五一 七、四三八	一七五、三四一 六、〇〇八	一一八、三一〇 一、四三〇

備考　各年度の數字の右側はデッキ客、左側はキャビン客を示す。

右に據れば七年間に於けるデッキ客の總入國者は二十九萬三千六百五十一人、總出國者は十七萬五千三百四十一人にして差引十一萬八千三百十人が入國者の超過數である。キャビン客は支那移民とは關係ありとも思はれない。此の入國超過數の內、幾割を支那人と見て可いかの推算は暫く後廻しとして、先づ左に前表の年度以降一九〇六——〇七年から一九一七——一八年に至る間の數字を揭げる。これには入出國者の經路、卽ち其の出發地及行先地別の統計を揭げて居る。

一九〇六——〇七
一九一七——一八　年間デッキパッセンヂャー入出國數

入國者數

年度	香港	汕頭	海南	其他を含む入國者總數
一九〇六—〇七年	二、八〇二、一人	四九、五一一人	七、〇二七人	六八、〇九〇人
一九〇七—〇八年	二、六三一	六二、三三二	一〇、三九五	八八、六九一
一九〇八—〇九年	二、一四七	四四、〇九九	八、七九一	六〇、九一九
一九〇九—一〇年	三、三四九	四四、七五九	九、二三四	六五、〇一三
一九一〇—一一年	五、八八七	五六、五一四	一三、〇〇八	七九、五四六
一九一一—一二年	三、五五五	五七、三九八	一〇、三〇五	七五、五二九
一九一二—一三年	三、六三二	五二、三九〇	一二、三三九	七一、七九九
一九一三—一四年	三、〇七八	六五、七九七	本年度以下は支那各港と表はすのみ	七二、二六〇
一九一四—一五年	一、八二〇	五四、八八五		六八、三〇九
一九一五—一六年	一、九〇六	六三、七六四		六八、三〇九
一九一六—一七年	一、五〇八	四八、八二五		五三、〇五八
一九一七—一八年	二、〇一四	三三、一九二		三九、四一八
計	三四、三二九	六三三、五〇二	七一、〇九九	八〇二、一五六

出國者數

年度	香港	汕頭	海南島	其他を含む出國者總數
一九〇六—〇七年	三二、〇三六人	六〇九人	—人	三九、三七一人
一九〇七—〇八年	四二、三七三	一、五二〇	—	五三、六四四
一九〇八—〇九年	七、六七六	二七、一〇二	五、四九五	四九、七八七
一九〇九—一〇年	二五、四三八	一九、九八八	二、六九六	五八、一四七
一九一〇—一一年	四二、九六五	一六、三三二	三、七一〇	七三、八四一
一九一一—一二年	四〇、四九八	一一、二七四	七九〇	六三、五四三
一九一二—一三年	三六、二九一	八、〇五八	一、六三七	六一、一三八
一九一三—一四年	二六、八九九	一六、九五九	—	五七、八六一
一九一四—一五年	一、一〇〇	四四、六七六	—	五七、五一六
一九一五—一六年	一、二〇〇	三九、二八〇	—	四七、六七三
一九一六—一七年	二、七六四	三二、五五九	—	四〇、七三五
一九一七—一八年	三、〇五三	二九、七五〇	—	三七、二六八
計	二六二、二九三	二四八、一〇七	一四、三二八	六四一、五二四

前表の數字を要約すると左の如きものとなる。

香港、汕頭、海南島を含む				
支那よりの入國者數（總入國者數の九割二分）	一九〇八—〇九年	一九〇九—一〇年	一九一〇—一一年	一九一一—一二年
支那以外よりの入國者數	一九一二—一三年	一九一三—一四年	一九一四—一五年	一九一五—一六年
合計	一九一六—一七年	一九一七—一八年	計	
香港、汕頭、海南島を含む				
支那方面への出國者數（總出國者數の八割二分）	七三八、九三〇人	六三、二二六人	八〇二、一五六人	
支那以外の方面への出國者數	五二四、七二八人	一一六、七九六人		

合　計　六四一、五二四人

差引支那よりの出國者數　二一四、二〇二人

卽ち支那よりの入國者數は支那への出國者數を超過すること二十一萬四千二百〇二人に達して居る。本表の數字はデツキ客のみを示すもので、此の外キヤビン客の入出國があるが、之は入出國數相平均して居るのみならず、此の種旅行者は移民級以外のものと見るべきであるから之を除外し香港、汕頭及海南島を主とする支那各地と盤谷港間のデツキ客旅行者數を以て所謂華僑の移動數と看做して大體大過ないであろう。從つて一九〇六——〇七年から一九一七一八年に至る十二年間に於ける二十一萬四千二百〇二人の入國超過數がタイ國へ居殘つた華僑であると見て可からう

次に一九一八——一九年（佛曆二四六一年）以降の統計は人種別に依つて居るが、之に依れば左の如き支那人入出國者數を示して居る。

一九一八——一九
一九二七——二八年間デツキ客入出國數

支那人入國數

年度	男	女	計	其他を含む全入國者數
一九一八——一九年	——人	——人	六六、九〇一人	六九、一五二人
一九一九——二〇年	——	——	六四、六三二	六七、四九二
一九二〇——二一年	——	——	六八、七九七	七一、六七三
一九二一——二二年	六二、八四一	一一、一三五	七三、九七六	七六、四一五
一九二二——二三年	七五、六五五	一三、六七四	八九、三二九	九一、六六九
一九二三——二四年	八七、〇三四	二〇、九五三	一〇七、九八七	一一〇、五四六
一九二四——二五年	六六、〇一二	一八、六四五	八四、六六七	八七、〇六二
一九二五——二六年	六八、二三六	一八、一九八	八六、四三四	八八、八八五
一九二六——二七年	八〇、四一七	一九、九九三	一〇〇、四一〇	一〇〇、一七三
以上計	四四〇、二〇五	一〇二、五九八	七四三、一〇三三	七〇七、〇六七
一九二七——二八年	一〇九、一〇八	三〇、五〇四	一三九、六一二	一四二、五二二
總計	五四九、三一三	一三三、一〇八	八八二、七四五	——

支那人出國數

年度	男	女	計	其他を含む全出國者數
一九一八——一九年	——人	——人	三六、二二七人	三九、三二四人
一九一九——二〇年	——	——	四二、六八四	四六、三二九
一九二〇——二一年	——	——	三五、五六四	三九、二二八
一九二一——二二年	三八、二七五	六、六九二	四四、九六七	四七、九四三
一九二二——二三年	五一、五七二	八、五九〇	六〇、一六二	六三、七〇一
一九二三——二四年	五〇、三〇八	一〇、〇三四	六〇、三四二	六三、三四二
一九二四——二五年	四五、七三一	一〇、五二七	五六、二五八	五九、四八六
一九二五——二六年	四四、一三九	八、九七三	五三、一一二	五七、八七九
一九二六——二七年	五六、二九〇	一二、四五四	六八、七四四	七四、五三九
以上計	二八六、三一五	五七、二七〇	四五八、〇六〇	四九一、七七一

一九二七——二八年	四九、八五七	一〇、九三四	六〇、七九一
總計	三三六、一七二	六八、二〇四	五一八、八五一

六六、一六三
——

卽ち一九一八——一九年から一九二七——二八年に至る十年間に支那移民は八十八萬二千七百四十五人入國し、五十一萬八千八百五十一人出國し、差引三十六萬三千六百九十四人が居殘つたことゝなつて居る。

更に一九二八——二九年以降の統計を見るに、

支那人入國者數は

年度	男	女	計
一九二八——二九年	六二、三三八人	二三、六七八人	八六、〇一六人
一九一九——三〇年	五五、三一九	一五、三一七	七〇、六三六
一九三〇——三一年	五八、一一一	一七、八二四	七五、九三五
一九三一——三二年	五三、五八二	一五、八九五	六九、四七七
一九三二——三三年	三九、九七七	一二、八七七	五二、八四五
一九三三——三四年	一三、一八三	三、一四一	一六、三二四
一九三四——三五年	一九、九五一	五、〇九〇	二五、〇四一
計	三〇二、四六一	九三、八二二	三九六、二八三

支那人出國者數は

年度	男	女	計
一九二八——二九年	四四、七五三人	一四、七九二人	五九、五四五人
一九二九——三〇年	三九、〇四八	一一、九三二	五〇、九八〇
一九三〇——三一年	四〇、一一〇	一二、一三四	五二、二四四
一九三一——三二年	三九、三七八	一二、六九九	五二、〇七七
一九三二——三三年	二九、四〇八	一〇、三六一	三九、七六九
一九三三——三四年	二一、一八七	八、四八六	二九、六七三
一九三四——三五年	二〇、三九八	七、八六〇	二八、二五八
計	二三四、二八二	七八、二六四	三一二、五四六

となつてゐる。卽ち一九二八——二九年以降一九三四——三五年に及ぶ七年間に於て、支那人の入國者數は三十九萬六千二百八十三人、出國者數は三十一萬二千五百四十六人にして、差引八萬三千七百三十七人の入國者數の超過となつて居る。

以上に掲げた一九〇六——〇七年以降の統計に依て一九〇六——〇七年乃至一九一七——一八年の十二年間に於ける**タイ**國の總入出國者數と支那移民數との關係を見るに支那移民數は總入國者數に對し約九割四分を示し、又支那移出民の總出者數に對する割合は約八割六分である。今假に此の割合を以て一九〇〇年より一九〇六年に至る七年間の數字に當てる時は、其の總入國者數二十九萬三千六百五十一人中約二十七萬六千人、又總出國數十九萬五千三百四十一人中約十七萬人が夫々支那移出入民であると推算し得らるべく、而して之は四圍の狀況から見て餘り亂暴な計算ではあるまいと思ふ。

以上を綜合すると次の表が出來る。

年度	支那移入民	支那人出國數	差引殘留
一九〇〇—一九〇六年間	二七六、〇〇〇人	一七〇、〇〇〇人	一〇六、〇〇〇人
一九〇六—一九一〇年間	七三八、九三〇	五二四、七二八	二一四、二〇二
一九一〇—一九一七年間	八八二、七四五	五一八、八五一	三六三、八九四
一九一七—一九二八年間	三九六、二八三	三一二、五四六	八三、七三七
計	二、二九三、九五八	一、五二六、一二五	七六七、八三三

即ち最近の三十五年間に約七十六萬人に及ぶ多數の支那移民が居殘つた譯である。言ふ迄もなく此の間死亡者も少くはあるまいが、出產數も亦決して少くない筈であるから、出生死亡兩者を相殺して現在の在留支那人の實數は前記の殘留數に比し、更に多數であらうと謂ふことは當然想像される所であらう。尙玆に注意すべきは前揭統計の取扱ひ居る前半年度中は單に盤谷港に於ける入出國者に就てのみの數字を擧げ、英領馬來方面並に佛印國境方面に於ける入出國者を含んで居ない點であるが、これは**タイ**國官廳の統計の不完全から全く知る事が出來ないのである。けれども種々の狀況から判斷するに、是等陸境方面の入出國者數の間には大差なく、且つ此の方面よりの入出者數のバランスは前記殘留者數を多少とも增加しこそすれ、決して減少することはないものと考へられるから暫く之は問はない事にして置く。

以上の數字に據つて**タイ**國政府發表の統計が僅々四十四萬五千を示して居るのは寧ろ過少にして、不正確なものであることが判明する。これは主として調査の不完全と二重國籍に關聯して居るものと思はれる。況んや支那移民の入國は決して最近四十年や五十年のことでなく、過去數世紀に亘つて行はれて來た事情を考ふれば、或は支那側發表の華僑數百五十萬乃至二百五十萬と言ふのが寧ろ**タイ**國華僑の實數を語るに近いと言ひ得るかも知れない。現に**タイ**國政府要人の語る所に據れば同國華僑の數は百萬を超過することはあるまいが、夫れより著しく少くないと考へられると言つてゐる。

以上の華僑の出身地別の統計に付ては之を知るに由ないが、盤谷市中華總商會關係者の語る所に據れば**タイ**國の華僑は大體左の如き割合を示して居る由である。

滿洲人	五〇%
福建人	二〇%
海南人	一〇%
廣東人	一〇%
客家人	五%
其の他	五%

尙最近上海、寧波方面の出身者が增加して來たことが注意を惹くと言はれて居る。

三、華僑の地方進出

タイ國華僑の活躍の地域は從前にありては交通の關係上、盤谷及同地を距ること遠くない大河流域の都邑並に往時支那海賊に依つて先づ開發された歷史を有する交通至便の馬來半島地方に限られ、奧地に入り込むものゝ如きは寧ろ極めて稀であつた。然るに近年移入民の數が漸次增加し、盤谷及其の附近のみに於ける活動の餘地は段々狹められて

來るに從ひ自然奥地方面に流出するの氣運が醸成せられた際、鐵道が比年諸地に開通延長せられ、また然らざれば國道が建設せられて自動車を通じ交通の便益加はるに隨ひ、支那人の地方進出の勢は顯著となつた。從來に於ける國勢調査の際、華僑の取扱方即ち之を支那人とするか、又は**タイ**國人と見做すべきか判然としないものが多く、此の事情は地方に於て殊に甚しかつた。官廳發表の統計が甚だ、正確を缺くものなることは當然想像される所であるが、支那人の地方進出が稍々顯著ならんとせる約二十年前、即ち國有鐵道が奥地に延長せられつゝあつた當時の統計に就いて見るに華僑の地方分布は左表の如きものがある。

タイ國内支那人の分布狀態

州名	タイ人	支那人	其の他	計
盤谷	五一八、一二三人	一一九、〇二九人	二九、五六七人	六六六、七一九人
アユチヤ	六七九、六四九	一三、二二一	一二、三七五	七〇五、二四五
チヤンタブリ	一四二、二二六	二、六二八	五、五四三	一五〇、三九七
スラート	一七八、七七五	四、四四四	二、一七五	一五八、三九三
ナコン、チヤイシー	三三三、三七五	二〇、三五一	三、四九七	三五七、二二三
ナコン、ラヂヤシマ	五七三、四七三	四、一七五	一三、四三六	五九一、〇八四
ナコン、サワン	三五八、四七三	五、二四四	一、九八八	三六五、七〇五
ナコン、シリタマラート	四七〇、七六三	五、三二七	四九、六四三	五二五、七三三
パタニー	四六、五七五	三、七三五	二四九、五七八	二九九、八八八
ブラチン	四七三、一八七	一八、六三三	一五、〇一三	五〇八、三三九
ビサヌローク	三九三、三二三	三、〇二三	一九四	三九六、五四〇
パヤツブ	七七一、二四〇	一、三三一	二五、五一三	七九八、〇八四
マハーラート	五三七、三五八	二、二九五	一四、一九九	五五三、八五二
ブケット	一四八、四六四	二四、五九七	六九、四二一	二四二、四八三
ラヂヤブリ	四三三、八四三	三〇、一一〇	七、一九〇	四七一、一四三
ウボン	九一七、六七五	八八二	五七、九二一	九七六、四七八
ロイエット	六九五、二六四	五一五	一、七八四	六九七、五六七
ウドン	八二六、〇八三	九五四	二五一	八二六、九八八
計	八、三九七、八六九	二六〇、一九四	五四九、二九二	九、二〇七、三五五

備考　一九一九——二〇年當時の調査に據る。其の後地方行政區劃に改正ありたるも調査當時の州名による。

前表の數字に依つて之を見るに、在留支那人數は盤谷州（盤谷市）、アユチヤ州（アユチヤ市）、ナコンチヤイシー州（ナコンパトム市）、プラチン州（ペトリウ市）の諸州及錫鑛業の中心地たるブケット州（ブケット市）等市邑地を含む地方最も多く、盤谷市に遠ざかる諸州、就中鐵道の開通なき北部パヤツブ州、東部ウボン、ロイエット、ウドン等の諸州に於て最も尠い事を示して居る。此統計は佛曆二四六二年即ち大正八、九年の調査に係るものであつて、當時北部鐵道は僅かにパヤツブ州に入らんとし、又東北部鐵道はコーラート市（ナコン・ラジヤシマ州）に止まり、東部鐵道はペトリウ市（プラチン州）以東に延びず、支那人地方進出の傾向が未だ著しきものでなかつた時代である。

然らば鐵道開通が支那人の地方流出に如何なる影響を與へたかと云ふに、北部鐵道が現在の終點パヤツブ州首府チエングマイ市まで開通したのが一九二一年、東北コーラート線が更に東方に延びてウボン州に入つたのが一九二六年

東部ベトリウ線が佛領境に達したのが同じく一九二六年暮であるが、鐵道開通前後を通じ是等諸地方に數回旅行した筆者の實際見聞に依るも當時支那人の內地在住數增加の趨勢は想像以上に大なるものがあつた。是等新鐵道沿線の都邑に於て雜貨商其の他新しい事業を興すものは殆んど支那人のみで、唐木及賴仲買人、飯舖及客棧、乘合自動車營業、精米業、製氷業の如きは全く華商の獨占である。

北部鐵道沿線地方は比較的古くから開けた地方であり、又英領に接近して居るため緬甸人、印度人等の在住するものが多く、支那人は數に於て遙に少なかつたが、鐵道開通後支那人の在住するもの激增し、ラムパン驛から佛領國境チェングセンに至る自動車國道約三百粁及其の中途チェンライ市（ラムパン市より二百四十粁）より英領緬甸國境メサイ村に達する新開道路約六十粁の沿道に於ける如何なる小村邑にも支那人商店の軒を並べて居らぬ所はなく、而も其の多くは新築の大店舗を構へて居り、如何に支那人が非常な勢で奧地深く進出しつゝあるかの情況が容易に看取せられる。東部及東北部鐵道沿線は多く新開地で其の新停車場附近は支那人が店舗を開設するに從つて市街が出來たと言つた有樣である。

今是等の事情を觀察する一資料として前揭の統計調査より十年後の一九二九——三〇年當時の調査に據る國內州別支那人在住數を檢るに次の如く示されて居る。

州名	男	女	計
盤谷	一五九、九六五人	八一、三一二人	二四一、二七七人
チヤンタブリ	三、〇〇一	六八一	三、六八二
プラチン	二三、一九五	九、一八〇	三二、三七五
ナコンラチヤシマ	九、八八八	三一四	一三、〇二八
ウドン	一、四五二	四五三	一、九〇五
パヤップ	五、三九〇	一、五九八	六、九八九
ピサヌローク	六、九九三	一、二八七	八、二八〇
ナコン・サワン	七、八五七	二、一八一	一〇、〇三八
アユチヤ	一七、五四四	六、二九九	二三、八四三
ナコン・チヤイシ	一七、二二三	七、五三九	二四、七六二
ラチヤブリ	一八、七三七	六、六八九	二五、四二六
ナコン・シリタマラート	二三、七七九	六、九二九	三〇、七〇八
パタニー	五、五六三	一、四三七	七、〇〇〇
プケット	一三、一七七	二、七八四	一五、九六一
計	三二三、七六四	一三一、五一〇	四四五、二七四

前表は前記一九一九——二〇年度の統計表中の州名と符合しないものがあるが、それは其の後地方行政區域に變更を來した關係である。卽ちステートはナコンシリタマラートに、マハーラートはパヤヅプに、ウボン及ロイエットはナコンラチヤシマに夫々併合されたからである。

この二表を對比するならば、新に鐵道の開通せる地方に在住する支那人の數が比較的增加して居ることが判るであらう。

斯の如き支那人の地方進出は地方產業開發、通商增進に好影響を與へて居る事は否み難いが、玆に注意すべき現象

が生じて來ることは看過し得ないのである。卽ち地方に於ける糶仲買人は凡て華商である。彼等は一方に於て各種雜貨其の他の販賣業を營みて農民に對し日用品を掛賣し、收穫期の秋に於て極めて格安に糶を以てこの掛代金を決濟する仕組となつて居るから、米作の利益は之等支那人の仲買人に壟斷せられ、利に鈍な農民は不知不識の間に此の種華商の搾取の犧牲となり、何時までも慘な生活を脫し切れないのであると云はれて居る。此の狀態は湄南沿岸の中部地方に殊に甚しいものがあつて、旣に農民救濟の爲めに信用組合制度の擴充を盛に奬勵して居るが、未だ其の利用は普及するに至つて居ない。

近年東部及東北部地方に於ては糶のみに止らず、唐木、家畜、獸皮其の他各種農產物等に至るまでも華商の土民搾取が露骨となるの傾向あり、一部具眼者の注意を惹いて居る。之を要するに華僑の地方進出は一面に於て地方物資の利用價値を向上せしむる好作用あると共に他面、前記の如き弊害を地方到る所の隅々にまで波及せしめつつあるのである。

而して古くより馬來半島地方に於ける支那人が多數錫鑛業及護謨栽培等に從事して居るものを除き、今日まで新に地方に進出する支那人は商業に關する方面を主として居つたのであるが、最近各地方に亘つて支那人が野菜、果樹の栽培は勿論米作等にも手を染めんとするものが增加して來たことは注目すべき現象である。

○亞細亞の肢脚タイ國

醫學博士　磯部美知

新興タイ國

佛領印度支那が丁度人間の盲腸のやうに大陸から垂れ下つて居るその傍らにタイ國は又恰かも蟲樣突起の如く密接な關係に於て其處に附隨して居る。

地圖の上から檢討すれば大陸亞細亞の一つの肢脚とも考へられやう。そして他の一つの肢脚を印度大陸とすれば此の二つの肢脚は亞細亞をしかと支へねばならない責任がある。

印度は古き文化の醍醐味を亞細亞の諸民族にはぐくみて今は萎びた乳房のやうに力なく印度洋に浮んで居る。その包藏する所の無盡藏の富も數百年に亘る白魔の强奪吸收に遇ひ日々に枯渴せんとしつゝある。

之に反してタイ國は正に蟲樣突起の如く無用に見えて恰かも有力なる一つの不思議の存在である。一朝何事かの機緣により此所に熱發し化膿するやうな場合に立ち至らば、丁度盲腸炎にて人間がよく斃れるが如く亞細亞の命もそこで重態に陷るであらう。

一見頗る目立たぬ存在にして、然かも亞細亞の死命を制する此の重要なる存在を何故か我等はあまり重大に評價して居なかつた。

畢竟英佛の相角逐する天地に觸るゝを避けて、敢て之より遠ざからんとした爲めか、或は既に我等を容るべき發展の餘地なきものと早合點して之を看過し去りし爲めか、何れにしても我が國はタイ國を考慮の外に放任して永く之をおろそかに取扱つて居た事にまちがひはない。

赤道から以北二十度迄の間に介在し、其の面積五十二萬平方粁、人口千四百五十萬ばかりを數へ平和な常夏の樂土である。

約六年前、かの有名な無血革命が成就して、茲に立憲君主政體となり、現アナンダ國王未だ童孩のため三名の攝政により組織されたる攝政院を置いて政治をとつて居る。

かつては世界唯一の君主專制國であつたタイ國も、いつ迄も超然として桃源の夢を貪ぼつて計りは居られなくなつた。寧ろ世界の趨勢に引きづられて後ればせながらもタイ國は諸外國、殊に我日本の後を追うてその成長の第一回の脱皮をしたのである。

此の變化は明らかに人心を一變した。先づ議會を見れば人民代表議會が作られ民選及び官選の議員によつて一院が組織されてある。兩者共に議員は各九十一名を有するから、つまり總員百八十二名の選出議員があるわけである。

變革以前のタイ國は王族一門及び貴族により、その高位顯官は殆んど占據されて居た。そして彼等の多くは英國留學生であつた。英國勢力の知らず〳〵の間に深く浸潤して行つた理由も直ちに了解が出來るであらう。彼等は永きは十數年短きも七八年英吉利に留り歸朝後と雖英人の如く英語を語り、英人の如く生活するを誇りとした。

歐洲崇拜の惰性は今も尙タイ國には續いて居る。我が國が後進國で文物凡て歐米に學んだ事も彼等は知つて居る。それに惡い事にはタイ國學生の偶我が國に留學する者の中には、屢々わが國の教授と稱する輩が得々として獨逸語を

又英語を教壇に立つて喋々するを聞き、是は矢張歐米へ留學した方がよかつたと後悔する者のある事である。此の一事はわが朝野に等しく大きな關心を以て外國語混入教育の至急修正を要請するものである。

斯かる事情が卽ちタイ國人をして我が國よりも歐米をより高く評價せしむる愚かなる理由となる。勿論皮膚の色を通して來る卑劣感は、日本人をタイ國人と同じレベルまで引き下げるに亦一つの有力なる根據を與へるに相違ない。

皮膚の色は白色に必ずしも優越性が存在せざるに拘らず白人は有色人種を常に侮蔑した。之は物質文明卽ち小乘的文明の先づ彼等に發達した爲、恐ろしく彼等を不遜にした爲めである。

近時タイ國と我が國との關係に往々不快なるさゝやきを聞く。卽ちタイ國は英佛の擒となつて、我が國との親善に稀薄を傳へられたのである。然し是は恐らく何かのあやまれる憶測に相違ない。

日本の力を知らしめよ

是より先、十三世紀の中葉にスコータイ王朝の華かなりし頃、タイ國は彼の半島全部新嘉坡尖端迄もその領土として支配した。

北、雲南に接し支那に境してその廣大なる領土に王朝の榮を謳つた。

明の神宗帝の時代に降つても現タイ國の優に二倍の面積を所有して居たと傳へられて居る。

我が國がキリシタンの魔法を恐れ全然基督教の弘布を止めんとして嚴かな鎖國により、三百年の平和に陶醉して居る間に、英佛は逸早く一は緬甸馬來方面より他は印度支那よりタイ國に働きかけて巧妙にその魔手を伸ばし、すこしづゝ、この國を左右より蠶食しだしたのである。結果に於ては斯くの如く兩國より削り取られ、その領土の半ばを失

ひ現在の如く縮小されて終つた。

その餘勢を驅つてメナムの兩岸數哩の地域迄英佛はタイ國を壓搾して、之を狹長なる緩衝地帶としてサンドキッチしようと企てた。然るに、歐洲大戰の勃發にあひ、今度は無理に聯合國側に引き摺り込みタイ國としては頗る大きな損害を蒙つた。英國はやむなく六代國王を英國の名譽大將にしたり、盤谷に抑留した獨逸の商船を、タイ國に與へてその不滿を償はんとしたりなどした。時の皇太子ビッサヌロークは頗る不平でこの大戰參加を極力反對しその無益を主張したのである。然し終に英國の狡猾なる術中に陷つてタイ國は思はぬ有形無形の損害を蒙り、然して、そのかち得たるものは猶逸のボロ船數隻に過ぎなかつた。

タイ國人の心境を叩けば必すや百人が百人タイは弱小國だから已むを得ない、何をされても我慢する以外に途がないと答へるにきまつてゐる。反面胸の底深くやる方なき恨を包んで今は一意タイ國の未來の成長發展に大きな希望をかけて只管營々努力する姿を發見する。

熱帶人の常として只、彼等は擧措動作凡て緩慢である。我が國人より之を觀ればタイ人の優柔不斷に全く失望して殆んど愛想が盡きる人もあらう。然し彼等は進歩成長至つて緩慢であるけれども常に希望をもつて居る。極めて徐々に兎に角前へ〳〵と前進しつゝある。弱小國の悲しさは物事凡て小規模でその發達も時間がかゝる。タイ國もこの憾みがメナムのやうに深い。

一朝有事の日、然らばタイ國は如何なる態度に出るであらうか。英佛に組して、若し日本を敵として戰はんかその結果は考へてもゾッとする。タイ國は東の間に木葉微塵に粉碎さるゝであらう。今次の事變のわが飛行機の威力は、南洋一圓を正にしかと睥睨して居る事を、彼等はあまりにもよく知つて居る。

然らば逆に日本と結ばんか新嘉坡の英國の禿鷹は長驅直ちに盤谷を衝くに相違ない。

又佛蘭西は問題でないにしても印度支那方面より北部タイ國の都市を脅かすこと火を睹るよりも明かである。

佛領印度との戰ひはタイ國に取つて恰好の敵手である。けれども常に英國がそのパアトナーとして毒刄を揮ふので單に佛領印度支那のみを相手として、タイ國は之を擊つ事も出來ない事情にある。

佛領內のラオ又はカムボヂア等は未だにタイ國に强い親しみと執着を持つて居る。その地方に於ては今日も尙タイ語が通ずる。所詮は內心上記二州の如き再びタイ國に歸屬したい希望を抱いてゐるかにも考へられる。其の關係は大戰前のアルサス、ローレンの感情であらう。

佛領印度との戰ひにはあらゆる角度から考へてタイ國は必ず勝利者となるべきも、現下の國際情勢が中々之に單獨に戰ふことを許さない。

英佛が日本との不幸を覺悟して、豫じめタイ國を味方に引入れんとする策略から、若し既往に奪つた所の失地を還附する等の好餌を以て、その參加を誘つても恐らくタイ國は之を拒否するであらう。

個人感情は集れば國民の感情である。國民感情は要するに國家感情で、之は信仰に變じてその强さを增す。

タイ國は時を古に遡れば色々の傳說も傳統も流れて居る。歷史に古び傳統にさびてる國の人々には、强き民族的の自負があり矜持がある。

タイ國も六七百年前のスコータイ王朝の繁榮又はその以前の遊牧民族？　としての活躍を考へれば、彼等は祖先の功績に大きな憧憬が湧く。

殊に日本とタイ國とは國情の甚だ相似たるものがあるので、タイ國は愈々日本の進んだトラックを走らんと精進し

だした。

どれだけ我れに隨つてつきくるか想像は困難に屬するけれども、要は我が眞價實力を認識せしむる事がタイ國を安心せしむる唯一の方法である。

日本の實力を知ればタイ國は寧ろ我と共に白鬼と戰ふことを熱望するであらう。

首鼠兩端遲疑逡巡する所以のものは未だ我が實力を充分認識せざるに基因する。

故に日泰親善の第一條件は、日本が先づ強くなる事である。

熱帶の風土と民族性

昔雲南の南より次第に諸族と混りつゝ南へ南へ下り來つて、自ら統一せられ、自ら膨張したタイ族は佛教文化を共通しその信仰を一にする平和の大民族を形成した。

此の民族固有の血液は恐らく支那民族と同一のものであらう。その血液を基礎とし、之に近接の諸多民族の血液を混加して茲に新生されたる言はゞ一つの優生民族としてのタイ族は誕生したのである。

從つて、茲に面白い事は長政時代前後を通じ多數の同胞の血液も卽ちわが誇りある大和民族の血潮の若干も極めて僅少ながら、タイ族の何處かに流れてゐることを見逃すことは出來ない。

由來タイ族は他民族との混血に甚だ寛大にしてペルシヤ、馬來、印度、ビルマ乃至白人でも之を娶り之に嫁し平氣で同化し同化せられる特質を有つて居る。

一夫多妻は動物全體を通じての生物學上の眞理なればタイ國に於ても亦、支那民族の樣に永らく之を實踐躬行して

來て、そこに聊かも不合理又は不自然を發見しなかつた。

生活といふ事に心配がないならば男は何人の女でも之を娶つて產ましめねばならない。人類の生命を能ふ限り擴充し延長する爲めに男は二人以上の女に產ましめる責任があるのだ。

マホメットはそのコーランに四人の女を許してる。之れ人間の種の消失を憂ふるからである。女を多數所有する事を享樂と考へる所に甚だ大きな誤謬が芽生える。

タイ國は熱帶國である。常夏の國である。四、五十年前迄はあの廣袤を以てして尙且つ人口漸く五六百萬であつたらう。此の頃でこそ千四百萬と云はれて居るが然かも尙稀薄な人口である。人々の生活は豐かならずとするも決して生きるには事缺かない。衣服は腰を纏ふ一片の布で足り手を伸ばせばバナヽが實つてゐる。闘はずして生命の糧は與へられる。

熱帶は卽ち之を譬ふれば天然の一大孵卵器のやうなものだ。五穀、果實、草木、禽獸、蟲魚皆常に殖えさかえる所である。

秋冬半歲を耕さず收穫せず無爲に暮らす國々と比較して果してその差幾何であらう。畢竟斯ういふ事が云へる。タイ國に限らず熱帶に國する諸地方ではその面積は成程、わが本土と等しいとしても、その天然の惠む富源は二倍も三倍も大きいものであると。タイ國の將來に大きな樂しい期待がもてる所以でもある。

北部は山紫水明鬱蒼たる樹木に富み南部は坦々たる平原見つくす限り農耕の理想鄕である。

タイ國は始め十三四の行政地區に分けて居たが、近來之を九つかに整理したと聞いた。

產物は何と曰つても米が第一であらう。次いでチーク材その他雜木材、錫、綿、皮革、砂糖、ゴム、寶石等を出だ

す。又金や石油も相當あるらしい。

戰略商略上の要地

タイ國の四隣の關係を一瞥すれば、人々はその接觸面の多數に驚くであらう。西方に海を距てて先づ印度がある。そして緬甸とは直接隣國として昔から錯綜したる國交があつた。屢々戰ひ屢々破れ兩國共互に疲れ互に國力を消耗した。緬甸と佛領印度支那と接合する部分を一跨ぎ跨ぐと其處に雲南がある。雲南から降つて長江に導かるれば水路洋々我が國に一路通ずることが出來る。東方佛領印度支那は舊惡を呑みこんでタイ國に流盼を送つて居る。

南方にはスマトラとボルネオと相對峙しその間からジヤワがつゝましやかにのぞいて居る。

ボルネオの東にはセレベス島横はり、杳かにフヰリッピン群島乃至ニューギネアを遥くに望んで居る。

南アジアの諸島が綺羅星のやうに南に散り、海は靜かに紺碧のせゝらぎをそよ風に立てゝ、この島々を撫でゝ居る佛領印度支那を一直線に飛び超ゆればそこに海南島がどつかと坐す。

斯かる地勢の檢討を終れば我等は如何にタイ國が商略上乃至軍略上樞要の地位を占むるかがわかる。況んやタイ國には二百萬の華僑がその敏腕を揮つて日夜活躍してる事を思へばその意味の更により深くより重大なるを思はずには居られない。

華僑問題が屢々我が識者を憂慮せしめて居るがタイ國在住の華僑は、同國の嚴重なる治安維持の監視下に苟くもタイ國の主權を蔑ろにする樣な不埒を決して働かない。私かに策動するやうな事などあれば直ちに國外に追放される。不逞の徒の追放は特に我國に好意をよする爲めではなく全くタイ國の尊嚴を保つ上から斷然治安維持の鐵則によりて

之を行ふものである。

不思議な事には支那の第二世は全然民國人意識なくタイ魂の純粹タイ人の氣魄を有するから面白い。タイ國に生れたる支那人第二世なるにも拘らず支那人たることを屑しとせずして却つて支那人を見下げるから不思議である。尤もタイ女を母とする第二世のことである。

タイ民族の包容力は這般の眞理を充分理解しつつ、何の躊躇もなく、第二世はタイ人として立派に法律上認める。從つて彼等も亦心安くタイ國に順應してやがてタイ人として立派に忠誠をつくす。

此の間の消息より『環境と心理』『言語と母國』について我等は深く考へさせらるゝものがある。

臺灣統治などに於ても『臺灣語全廢、日本語强要』は確實なる効果を齎すこと必然である。

タイ國は完全なる獨立を常に欣求して居る。此の國に流れ入る凡ての血液をタイ民族の坩堝にかけて鎔かさずんば已まない代りに又その不純の心情を抱懷する者の存在を許さない。

語學は恐ろしい魔物である、タイ國は臍の緒を斷ち此の國で育ち、又教育された支那人は既に思想に於て感情に於て動作に於て全く支那人を離れて居る。

斯のやうな幾多のデリケートな諸點を綜合觀察すれば案外華僑もその立つ所薄弱なものであることを諒解することが出來る。

南洋華僑の心理

タイ國以外に活躍する華僑も恐らく大同小異で民族的意識ははつきりして居ても國家意識には、常にアウトフオー

カスである。

遠き葬儀の世より弱肉強食有爲轉變の流轉極りなき變化の中に支那民族は繁榮を續けた。統治者の姓は幾十度幾百度代つたか判らない。此の支那民族とその統治者との關係の破綻に民族の忠義心は微塵に碎かれた。

國家の尊嚴も、君主の連綿性もきれ〴〵に切れて、泥土に委せられた。

大洪水に惱み拔いた支那民族が幾度か裸一貫に投げ出されても少しも屈せず、立ち直り〳〵幾度も幾度も人生の新しいスタートを切り、露悔ゆる所なく一つの諦めに徹してゐるのは、支那民族の生きる力の强さとして我々は之を重要視する。

萬民尊崇の中核がなく信仰の中心を喪つた國民は誠に哀れである。恰かも沙漠の放浪者の如き荒んだ氣持で運命の弄ぶがまゝに生活を充分享樂するのが支那民族である。

浚法子(ヂャンファーツ)を連發しつゝ乞ふものは量的質的に多からんことを希望し、飽くなき欲望に燃ゆるのが支那人である。

華僑を動かすものはテロ行爲が第一である。

金持は何處に於ても弱蟲である。支那を背景としてのテロ行爲に華僑たるもの決して齒は立たない。云はゞ「泣寢入り」を續けて、空しく拱手傍觀させられるやうなものである。我等は華僑の研究を、今一層深くすゝめて置かなければならない。

華僑は支那の良民である。卽ち善男善女の類ひである。商賈と曰ふ宗教の信者である。從つて、日支親善を南洋華僑より始めんとするなれば、こゝらの心理を充分理解し同時に我が商品を檢討し、佳良なる品質の精選價格の低廉等條件を有利にして之に當らしめることを必要とする。

支那人、殊に金錢を直接追ふやからは現實的な刹那主義者で、犧牲とか殉國等の情景は枯渴し盡して道義は一つの腕力の前にのみ生きて居る。

現實を最善に生きんが爲め金を欲する。金による享樂は何の民族も同じで、酒池肉林の定石的の遊び、次で賭博、支那人にも之はつきものである。要するに彼等は現實を全幅的に享樂し生活する。

金錢に餘裕が出來ると人間は凡てこの方向に走つて身をやぶる事が多い。

叩けば身を落し放せば騰る支那人はゴムよりも彈力性に富んで居る。貧困のドン底生活も富裕の大臣生活も役者のやうに氣輕く彼等は成し得るから仕合である。

現世的打算的時に厚顏無恥に感じられるやうな生活をお互に徹底すれば、支那人との交際は非常に氣やすく容易でもある。

タイ國の華僑は**タイ**國の法律の許す範圍內に於てのみ自由である。本國政府と秘密の連絡或は命令を奉じて暗躍すれば直ちに國外追放の憂目を見る。

本國に住んで多くの煩瑣な壓迫を蒙るより**タイ**國に逃れて安住な生活を續けた方が優つて居ると考へて來り住む者もある。華僑の**タイ**國に斯くの如く多い所以は一半如上の理由も伏在する。一半は海外に出た方が儲かる事の多い理由に由つて華僑は本國以外に榮えた。

華僑は盲目的義憤に燃えて現政府に獻金を續けるとはどうしても考へられない。非常にかけひきの上手な彼等は又非常にかけひきの巧みな本國政府の求めに應じて適當に資金を調達するに過ぎない。華僑は畢竟するに支那の「道具」である。

タイ國の要人は無血革命の主謀者達である。若さと潑溂たる元氣のもち主である。

人間の若さは常に理想を高め希望を燃えさせる。

總理ピブン大佐は世界情勢に順應して斷然武斷的にタイ國を最高度に武裝化しやうと努力する。文治派の總帥大藏卿プラジット博士は飽く迄タイ國の財政狀態を顧慮しつゝ、軍備擴張を反對し、小規模に之を留めんと念願する。

シン海軍大佐は怜悧の質を以て文相として若きタイ人の信望をあつめて居る。

皆三十歳乃至四十歳前後の壯者である。

タイ國では現職には大佐以上の軍人を置かない。少將に達すれば皆豫備役に編入して終ふ。勿論財政上の巧みな布石法である。

然らば第三者として刻下の國際情勢に處するタイ國の態度として何れを妥當と考へるかと問はゞ我等は寧ろピブン大佐の用意を賞讃する。

タイ國は成程貧弱な小國には相違ないけれども小さいながらに武備を充分にすれば英佛と雖、既往に遂げたやうな横暴を決して再び繰り返へさないであらう。

本來なら、東亞新秩序建設の日本のこの鴻業にタイ國も速かに參加して共にその責任を分擔すべきである。

ルアンゲ・プラジット氏はあまりに英佛を信じ過ぎてると同時に東亞の未來に建設的希望が計畫となつて燃えないのであらうか。

我等はピブン大佐の卓見と、愛國的計畫に擧手敬禮する。

舊王家の寵臣等は、まだ古い考に捉はれて居るかも知れないが、タイ國の革命は革命と稱しても君主專制を立憲君主制にしたに過ぎない。そして何等大義を破壞しては居らないのである。寧ろ日本風に考へれば王家はその正統の天子を戴いて本當の軌道に乘つた事になる。

卽ち第一王后の孫が現八世國王アナンダ王である。ラマ六世も七世も第二王后の子で兄弟である。

大陸亞細亞の肢脚を鞏固ならしむる爲めタイ國の人口三千萬——五千萬の增殖を要望する。

未來の世界の强國は道義に立ち人口の限りなく增殖する國家に約束される。故にタイ國に我等は樂しい希望をつなぐものである。（新亞細亞創刊號より轉載）

○岡崎氏招致タイ國學生旅行團の陸軍戸山・幼年兩校參觀印象記

昭和十五年五月廿二日岡崎氏招致タイ國學生旅行團一行十名が昭和通商株式會社の案内にて陸軍戸山・幼年兩校を參觀見學したるが内六名が泰文、三名が英文、一名が日本文にて參觀印象を綴りたるものを飜譯したものである。

一、健全なる國民精神を有する國家は安泰なり（泰文）

アンポーン・ヂイパテイム

過日、陸軍戸山・幼年學校を見學したが、先づ感心したのは校内悉有施設の整頓せることである。而して教へ方も巧妙で習ふ方も眞面目で、教師と生徒とがピタリと一致してゐる。體操も曲藝的に行はれ、元氣潑剌たる健康體は將來陸軍の推進力となるのだ。

國家の強大は軍人精神の發揚から出發する。健全なる國民精神を有する國家は安泰である。國民が確固たる決意を有し居らばその國家は強固である。陸軍戸山・幼年兩校は國民を鍛錬して立派なる國軍を養成し居れることは極東即ち日本には缺くべからざる重要施設である。自分は吾等を美しい心で迎へて呉れた生徒諸君の居らるゝ學校に暇を告げて去るのは何となく殘り惜しい氣持がした。希くば極東に於ける偉大なる身心鍛錬所として兩校の隆昌を祈る。

二、日本は武士道の國なり（同上）

トウープ・タメークン

私は遠い所から來まして諸君の學校を見學致しましたが、學校内の機構の善く完備してゐるのには驚嘆しました。私は學校内を短時間に瞥見した丈でも日本は武士道の國なりと云ふことを感得しました。日本人の血管中には愛國の精神が流動してゐます。それはこの學校で如實に知ることが出來ます。今後の日本は何處まで發展向上するか果てしがないでせう。日本人の心は一途に國家を隆昌にせんとし、國家を愛護し、國民は互に扶け合ひ、何時も國民は一心同體となつてゐる。何と言ふても忘れられない事は、日本人は幼い時から愛國の精神を養はれてゐます。武士道を好むのは僧侶が佛道を修行するのと同じであります。幼い子供でも國歌を謳ひ戰爭ごつこをして遊びます。その上に此種の學校で訓練される。學校では精神修養と身體の鍛錬と兩方で教育される。かるが故に日本は躍進的發達をなすのであります。

終りに臨み、戸山・幼年兩校の先生方並に生徒諸君が私達を御歡迎下さいましたことを厚く御禮申上ます。何卒、學校の隆昌と先生、生徒諸君の御健在を切望します。

三、教練は恰も實戰を見る心地せり（同上）

スッチヤイ・イエムオーパーツ

陸軍戸山學校並に幼年學校を見學させて頂き光榮と存じます。國軍指導者養成學校としての體操や教練を見學して一種言ふべからざる感激を覺えました。教練は何れも際どい藝當で例へば六米の高さの所から飛下りて私達の肝をヒヤ〳〵させました。其他の演習も見せて頂いたが何れも實戰を見るの心地が致しました。

茲に私達のために種々の實演を展觀せしめられたる好意に對し深甚の感謝を表します。

四、日本學生の忍耐努力には感嘆の外なし（同上）

ムオン・シエーツ

陸軍戸山・幼年兩校參觀の榮を得たるは望外の仕合せと存ずる。これ等學校は青少年の訓練と國家有爲の軍人を養成する所である。余は教室や生徒の動作を見て日本學生の我慢強き忍耐と、一生懸命の勤勉努力とに對し感嘆措く能

はざるものがあつた。

終りに臨み、校運の隆盛を祈る。

五、日本の軍隊は世界的優秀性を有すと感ず（同上）

ナッ・オーンヨーン

陸軍の學校を見學させて頂き光榮と存じます。私の考へでは日本の軍隊は世界列强中、一番早く發達することゝ思ひます。私の前で隊長は號令を下し種々の行動をなさしめましたが、その統制ある動作は一絲亂れざる、熟練、敏速、緊張振りには感嘆して何と表明してよいか解りません。私の國にもない種々な教練、體操の實演もあり、又劍道や飛降り術等の勇敢なる操作もあり、觀者ほ思はず手に汗を握りました。この見學を通じて私は日本の陸軍は世界的優秀性を有し、東亞民族の先達として榮え行くのも決して偶然ではないと存じました。日本の陸軍は平素より猛訓練を行ひ身心を鍛へ、一旦緩急ある時に備へて居ります。日本は軍隊のみならず、各方面共に躍進をなし西洋文明國と同じ水準に達しませう。私は我が**タイ**國も日本を見習ひ强力なる國家にしなければならぬと思ひます。

どうか日本國家の益々繁榮せんことを祈ります。

六、强國となるには平素よりの心掛が大切である（同上）

パリヤン・プラーンクン

陸軍の學校を見學してその忍耐强き猛訓練と其他の統制ある教練に全く驚嘆した、我が**タイ**國も是非、日本のこの樣式を模倣しなければならぬ。凡そ强國となるには平素よりの心掛けが大切である。平素充分訓練をなしおかざれば一旦緩急の際、何とも手の下しやうなし、戰爭しても勝利を得ることは不可能である。軍隊に於て如何に士氣旺盛であつても將兵の身體虛弱なるときは役に立たない。かるが故に平素、身體を鍛錬し、精神を修養し國難に際して準備し置く事は大切である。

私の見た體操や教練の指導法の巧妙なることには感嘆せざるを得なかつた。彼等は學業を終り戰線に出動すれば輝かしき戰果を收め得らるゝことゝ信ずる。種々なる競演や、我慢强い演技を拜觀した。

斯くの如く日本國民は大部分統制ある訓練を行ひ居るとせば正に世界最大强國となるに至らん。

吾等のために勇敢なる演技を示されたる先生並に生徒諸君の多幸御奮勵を祈ると共にこれ等を見學せしめられたる學校當局の御配慮を感謝し併せて御隆昌を祈る。

七、生徒諸君は外にありては勇敢に操作し内にありては禮儀正しく授業を受く（英文）

チヤイ・ウマヰチヤニ

先づ第一に私は軍隊に關する知識を持たぬと云ふ事を申上げねばならぬ。故に此學校即ち幼年學校の訓練と統御を拜見致しまして、私は訓練が非常に立派であり中でも模擬戰等最も驚異に價するものであると直ちに思ひました。即ち將校達は十フイートばかりの壁を瞬く間に登る事が出來ましたし、又拳闘を拜見致しましたが、それは私が世界中のどの國にも見受けられなかつたものです。

教室に入つて私は先生に教へを受けてゐる生徒の方々を拜見しました。これ等の生徒達は非常に禮儀正しく、それは優秀なる學校の規律を現はしてゐるのです。

最後にこの學校は日本に於ける最も優れた陸軍の學校であると申上げ度いと思ひます。

八、組織の完備と技術の優秀とは正に東洋一（英文）

バイデウルヤ・ナカニツテイ

この幼年學校は私の思ひますには立派な組織を持つてゐると同時に技術的優秀さを持つて居ます。そして東洋での

この種の學校の最もすぐれたるものゝ一つである樣に思はれます。

私の短い觀察では訓練の標準を精密に且つ詳細に表す事は困難であります。然しこの學校が今や世界に於ける戰の色々な舞臺、特に支那に實際に行はれてゐる戰爭技術に匹敵する樣な軍の技術發展に關聯して進歩を見せてゐるといふ證據は見られるのであります。私の個人的視察によりますと七十度に傾斜せる壁は支那に於て澤山の城壁に於て見られる以上、その登攀演習は實際的のものであります。即ち作戰計畫の實狀に基いて訓練の標準を立てゝゐる事は至當であると思ひます。然し同時に徹底的に計畫され、立派に實行されてゐる體格の向上は賞讃に値します。その結果軍國主義の爲ばかりでなく自身の健康の爲にも彼等は立派な強い人間になるでありませう。

青年に關する限りその精神については心から賞讃致し度いと存じます。それは彼等の日常生活に合體してゐる所の軍國の精神であります。地理學や語學の樣な學理的課目の勉强に加へて彼等は世界中の良く訓練された軍人達の間に名をあげる樣な嚴格な訓練を受くべきであります。

これは私の學校見學に就ての見解の一端でありまして全部は迚も短時間には申上げられません。兎に角愛國と軍國の精神はこの優れた學校に於て融合されてゐると言ふ事を略記する事が出來ます。

九、生徒は何れも筋骨逞しく文武兩道に勉勵し居れり（英文）

ソラツタナ・スリヤ

東京の陸軍幼年學校を數時間に亘つて見學した後、私は日本人は立派な軍人である事を知りました。彼等は熱心に

勉強し且つ大變勇敢な樣に思はれました。

此の學校は立派な組織を持ち學生達は最も優れた薫陶を受けて居ります。學生達は學校內の道を上官が歩いてゐる時に、その上官には非常な敬意を表して居ります。私は校庭で彼等がして居る體操を見た時に上手で全力を盡してゐると思ひました。又此學校で日本軍人は非常に健康だと私は感じました。彼等は逞しく强壯であつて痩せて虛弱な人は一人も居りませんでした。戰鬪中でも學生達は易々とどんな武器でも扱ひ思ふ儘に短劍や軍刀を使ふ事が出來ます私の意見ではこの學校の日本學生達は劍を執つての戰鬪では第一であらうと思ひました。その上に學生達はドイツ語、フランス語のやうな外國語を學んで居り彼等が軍事及戰爭に關する書物を讀む上に非常に便利であらうと思ひました此の學校を保護せらるゝ日本の皇室並に此學校の發展に盡してゐる人々に感謝致します。

最後に私は私達を接待してこの學校の隅々までも見學させて下さつた當局の方々に感謝致します。

終りに臨み私はこの陸軍幼年學校が近き將來に於て尙一層の御發展あらん事を希望して止みません。

十、日本軍隊は忍耐力を養成されつゝあり（日本文）

マノープ・サンカミツタ

私は初めて親しく士官學校へ來ました。そして私は大變素晴らしいことだと思ひました。この學校は力と我慢することを教へます。未來の日本の兵隊は戰爭に常勝するだらうと思つてゐます。

それから日本の兵隊各位に御機嫌ようと申上げ且つ御馳走樣で御座いました。

雜報欄

○秩父宮殿下中南支戰線御視察

秩父宮殿下には本年二月上旬御出發、中南支戰線を御視察被遊二月二十三日空路太刀洗に御歸還同日午後四時三十四分羽田飛行場御着御機嫌麗しく表町御殿に入らせられた。

○秩父宮殿下を東亞競技大會總裁に奉戴

皇紀二千六百年奉祝東亞競技大會にては同大會總裁として秩父宮殿下を奉戴申上げた。尙は會長には近衞文麿公就任したるが、日滿、華、比、布哇及び在留外人を合し七百四十餘名の若人が參集、六月五日から五日間、神宮競技場其の他で華々しく擧行した。この記念すべき大會の九日午後六時半の閉會式に當り近衞會長は特に百年後を祝福し、「紀元二千七百年への言葉」を述べたるがその歷史的言葉は直ちに錄音され帝都スポーツ緣りの地に埋藏、來る紀元二千七百年の式典まで永く保存されることになつた。

○日泰友好和親條約

かねて東京及び盤谷に於て折衝を續けて來た日泰友好和親條約についてはピヤ・セナ駐日泰國公使は六月七日、本國政府の訓令に基き最後的同意を表明したので十二日午前十時麴町三年町の外相官邸に於て有田外相とセナ泰國公使との間に署名調印を完了した。右につき外務省では同日正午外務省發表並に情報部長談を公表した。

【外務省發表】 本十二日午前十時外務大臣官舍に於て有田外務大臣と在京**タイ**國公使ピヤ・シー・セナ氏との間に友好關係の存續及び相互の領土尊重に關する日本國**タイ**國間條約の調印が行はれた。

本條約は日**タイ**間の傳統的友好關係を確認し之を益々强固ならしめ以て東亞の安定及び平和に貢獻せんが爲に日**タイ**兩國間に締結せられたものである。其要領は（一）締約國相互の領土尊重並に平和及び友好關係の確認（二）

兩國共通の利害問題に關する情報交換及び協議(三)締約國の一方が第三國より攻擊せらるゝ場合に於ける該第三國不援助義務を約したものである。本條約は五年の有效期間を有し批准書交換の日より效力を發生することゝなつてゐる。

【外務省情報部長談】 今般日**タイ**兩國間に友好和親條約の調印を見るに至つたことは寔に慶賀に堪へない由來日**タイ**兩國は共に東亞に國をなす東洋民族の國家として極めて友好親善の關係にあつたことは周知の事實である。

◇

殊に滿洲事變の當時**タイ**國が帝國に示した好意はわが國民の多とする所であり、他方**タイ**國における民族意識の興隆、國民運動の勃興にはわが官民としても常に同情と支援を吝まず、同國がその國際的不平等地位を脱却するための努力に協力し昭和十二年には同國と完全なる平等の立場に於て通商航海條約を締結したる如きその顯著な例である。兩國の緊密關係はその後益々その度を加へつゝあつたが、この傳統的友好關係を確認し之を一層鞏固ならしむる爲に本十二日兩國間に友好和親條約の調印を見た次第である。

◇

抑々本條約締結の提議は**タイ**側よりなされ在バンコック村井公使をして交渉に當らしめ妥結の運びに至つたのである。當初不可侵條約締結の希望も表明せられたが、我方は前述の如く從來兩國の親交關係に鑑み又不可侵條約は最近の前例に依るも今日の日**タイ**關係に必ずしも適當ならざるものがあるので寧ろ相互協力に重きを置き今回發表の如き要領の內容を持つ條約を締結したのである本條約においては領土の尊重並に平和及び友好關係の確認、共通の利害問題に關する情報交換及び敵國不援助義務が規定せられてゐるが是に依り日**タイ**兩國は今後來るべき世界の新情勢に際してもその友好關係をして磐石の堅きに置き相共に東亞並に世界の安定繁榮に貢獻し得るものと信ずる。

◇

尙**タイ**國は他方において英國及び佛蘭西と不可侵條約を交渉しつゝある模樣であるが帝國としては是等とは無關係に終始獨自の立場より前記條約の締結を交渉し來つたものである。

【外相泰國首相に祝電發送】 右條約調印と同時に有田外相は泰國總理大臣兼外務大臣ルアン・ピブン・ソンクラーム氏へ宛左の如き祝電を發した。

友好和親並に相互領土尊重に關する日泰條約を本日調印せるこの慶賀すべき機會に際し予は閣下に對して衷心より慶賀を表す

東亞に位する兩國の友好關係及び東亞の平和增進の爲め益々緊密なる協議を繼續すべきことは我等の確信する所である。

○**タイ**國公使館に於ける國民記念日祝賀會

六月廿四日午後五時より**タイ**國公使館に於て第八回政體變更國民記念日祝賀會を催したるが當夜、各國外交團、外務省關係者、在京**タイ**國留學生等多數參集盛會であつた。

○**タイ**國國民記念日當夜に於ける德川本會副會長の**タイ**國向放送

五月二十四日**タイ**國國民記念日當夜午後十一時より本會副會長德川頼貞侯は**タイ**國向け左記要旨の祝賀放送を致された。

尙は德川侯の放送の外に**タイ**國公使ピヤ・シー・セナ氏の祝賀放送もあつた。

親愛なる**タイ**國々民諸君

回顧すれば今を去る八年前千九百三十二年本月本日を以て**タイ**國は無血革命を完成せられて以來新政府の基礎は着々鞏固を加へ今や東亞に於ける獨立强國として儼然不動の地歩を占むるに至りたるは友邦日本として誠に欣喜に堪えざる所であります

私は此機會に於きまして今回貴國及我國の兩政府に於て友好和親協約が締結調印を終へたるに對し、聊か祝意を述べんと欲するものであります

世界の形勢は、時々刻々變遷して一刻も靜止するものではありませぬが、今次歐洲戰爭の勃發以來此形勢の變轉は誠に急テムポを以て進捗し今や世界舊秩序が急速に崩落し、新秩序の胎動が明かに看取せられます際、同じく、東亞に位する二大獨立國たる貴國及日本が、今度の友好和親協約を締結し、兩國の傳統的友好關係を更に具體化し、法文化したることは、兩國々運の發展上、實に同慶に堪えざる所であります

私は之に加へて、尙貴國民諸君に一言申上げたいことは、從來貴國と日本國とは修交五十年の間、唯の一回も、國交上不愉快な出來事を見たることなく、殊に此近今數年間に至りまして、兩國活動のあらゆる部面に於て、相互諒解親善の增進顯著に進み行き而かして日本は、千九百三十八年三月七日を以て、既に貴國と、通商條約の改訂を了し、名實共に、兩國對等の立場に

置かるゝことを明確にしましたが、政治上の協約は、今回のものを以て嚆矢とする次第であります。此事は、泰國に取りまして更に一段と其國威を列強の間に宣揚致したことになるのであります、泰國の富強に赴くことを、衷心より希望し、之を以て泰國に對する終始一貫不動の政策と致しまする我日本と致しましては、斯かる泰國々威の昂揚を見ますことは、我國民の一齊に欣喜雀躍する所で、恐らく貴國民諸君も之に同感のことゝ信ずるのであります

庶幾くは貴國民諸君が、此時代の變遷推移に更に活眼を開かれ今回の政治的協約の締結を契機として、一層、泰日兩國の親交が、緊密になり、依て以て、東亞の康寧を確保し、世界の平和に寄與する樣、御助勢あらんことを祈つて止みませぬ。之を以て私の祝辭と致します。

○タイ航業會社を政府買收す

タイ國唯一の汽船會社として、タイ灣内に於ける沿岸航路と新嘉坡航路とを營んで居るタイ・ナヴィゲーション會社は、タイ國の法律に據り設立せられたるタイ國籍の會社であつて、其の株式の一部は、タイ皇室や皇族其の他が之を所有して居るけれども、過半數の株式は新嘉坡に本店を有する英國會社たるストレート・スチームシップ會社の所有する所であつて、而して其の經營は、これも外國會社たる丁抹のイースト・アジアチック會社に委任せられて居り、實質的には、全く外國會社と云つても差支無い狀態であり、所有船舶乘組の高級船員も全部丁抹人である。然るに去る五月四日、首相ルアング・ピブン氏が新聞記者團との會見に於て發表したる所によると、タイ國政府は價額二百萬銖を以て該會社の所有船舶と其の營業全部を買收することに協定が成立して、六月二十四日の革命記念日を以て移轉を實行した筈である。

○南泰ソンクラーに護謨會社設立

今回タイ國王室内帑局援助に依り、自轉車タイヤ、護謨靴及日常使用ゴム製品製造會社がソンクラーに資本金二百萬銖にて設立された。資本金は二百萬銖なるが其の半額百萬銖は内帑局にて出資、殘額は外國會社及一般より公募された。

○ソンクラーに聯隊設置

國防省陸軍部にては盤谷バンスー駐屯の第五聯隊を南泰ソンクラーに移駐せしむることゝなり二月十七日盤谷出發移動を完了した。ピブン首相兼攝國防相は送別の訓辭をなし士氣を鼓舞した。

○タイ國警務局の秘密結社彈壓

タイ・支那・日本國籍臺灣人より成る祕密結社が不穩計畫をなしつゝあるを探知せる警務局は、去る三月一日午後四時を期し、盤谷トンブリーの同結社を襲ひ一味を逮捕した。中には蛇商標藥店主ナイ・ルワン、精米所職工長ナイ・テインセヒヤ等の有力者も居つた。

○タイ國政府、重慶政府提案商務官設置を拒否す

重慶政府よりタイ國政府に對し相互に商務官設置し度き趣の申出があつたが、タイ國經濟省にては左の理由により右の提案を拒否した。

(一) 現狀の儘にて充分事足る。
(二) 重慶にて商業を營むタイ國人一人もなし。
(三) 支那の政情不安定。

因つてタイ國外務省より右趣を重慶政府に回答した。

○華僑學校に對する文部當局の意見

文部省は現存の華僑學校にて充分に需要を充し得るとの見解を持して、華僑學校の新設を許可しない方針である。華僑學校數箇所の閉鎖に因る兒童は初等教育法に依り地方又は盤谷の諸校に入學が出來る筈である。(B・T、一二九)

○タイ國佛曆新年を太陽曆新年に改正せんとする委員會設置

タイ國政府は同國佛曆新年四月一日を太陽曆の一月一日に繰上變更せんとする調査委員會を設置した。

右の委員會は來年一月より佛曆二四八四年の新年とする事を提議してゐる。若し之が實現すれば本年は佛曆二四八三年となり僅に九箇月となる譯である。(B・T、一月十九日)

○タイ國の防空演習

二月十二、三日の兩日盤谷市並にトンブリー市に於て防空演習を行ひ、空襲標識の使用法、燈火管制、交通制限等の訓練を行ふた。各地方に於ても二月十四日より三月五日迄の間に各二日間宛、各地の防空指揮者の指導下に防空演習を行ふた。

○タイ國・英佛間に不侵略條約成立

六月十二日盤谷に於てタイ國及び英佛間に不侵略條約が調印された。（ロンドン六月十二日發）

○タイ國寺院及寺院居住者數

タイ國宗教局にては最近、國内寺院及び寺院居住者數の調査の結果を發表した。之に據ると次の如くである。

	寺院數	僧侶(人)	見習僧	使用人
マハー・ニカーイ派	一七、九三五	二四、七四	七二、七〇七	二八、五二九
タムマユッテイ・ニカーイ派	三三五	四、五四〇	二、四九八	四、四二一

（五・二・一、B・T）

○タイ國より竹細工指導教授として横田仁郎氏を招聘

タイ國にては先般我が外務省に盤谷高等工藝學校の教授としてタイ人に美術工藝特に竹細工の技術を教へる指導者の斡旋方を依頼し來りたるが此程慶應義塾普通部教授の横田仁郎氏が選任された。同氏は保子夫人同伴、國際文化振興會よりタイ國へ寄贈の各種竹細工約三百點、竹細工製作過程映畫、慶應普通部學生作成圖案數百點等を參考品として携へ五月三十一日神戸出帆の西貢丸にて赴任した。尚ほ同氏はタイ國に三箇年教鞭を執ることになる由である。

○駐泰帝國公使館附武官のタイ國防空基金中へ献金

今回タイ國駐在日本公使附武官田村砲兵大佐並に鳥越海軍大佐は各百銖を同國防空基金に獻金された。（B・T、三月五日）

○在泰邦人技師の國防献金

タイ國燃料局奉職中の日本人技師二十三名は國防省に二百銖を獻金した。（B・T、一、二四）

○タイ國日本學友會の設立

日泰文化提携と激増する日本留學生相互の親睦を圖る目的を以て本年三月五日日本學友會なるものが設立された。會長には三十餘年前日本に留學した海軍造艦部長プラ・チヤクラータ・コンギツ大佐が就任した。事務所を盤谷市日本・タイ協會々館に置き現在會員は約二百名であるが、この會には目下日本に留學中の者及び曾て日本へ留學視察訪問したもの全部を包括してゐる。

○横濱正金銀行盤谷出張所、支店に昇格

横濱正金盤谷出張所は昭和十五年三月九日より支店に改稱することゝなつた。

○タイ日本商工會議所役員改選

四月八日第五回定期總會に於て在盤谷日本商工會議所の役員改選を行ひたるが其の結果左の通り當選就任を見た。

會頭	高橋泰三氏	（三井物産株式會社）
理事	福田順吉氏	（横濱正金銀行）
同	大谷長三氏	（大谷洋行）
同	瀬戸屋熊治郎氏	（大阪商船株式會社）
同	清水清氏	（大同貿易株式會社）
同	谷清訓氏	（三菱商事株式會社）

（ABC順）

○タイ國燃料局長の轉出

今般、タイ國燃料局長ナイ・ワニット氏は燃料局不正事件の爲部下監督不行屆の責を負ひ五月五日退職し、大藏省經理局詰に轉出し、後任にはプラ・インドラ・サラサ大佐が任命されたワニット氏は石油國策の見地より永年國内石油業を獨占し來つた英國アジア、米國スタンダード兩石油會社を驅逐し全國石油配給を政府の手に收めた經濟自主權恢復政策の强力なる實行家である。今回の轉出は左遷の意味にて有識者の同情の的となつてゐる。（B・C、五・七）

○東京外國語學校にタイ語本科復活設置に關し山本代議士の質問要請

昭和十五年三月十八日第七十五回帝國議會衆議院豫算委員會席上「東京外國語學校に泰語本科復活設置」に關し山本厚三委員と松浦、有田國務大臣との質疑應答議錄抜萃である。

○山本（厚）委員（前略）外務大臣に關聯したことで文部大臣に御尋することを先に御質問致しますが、日本の東京外國語學校には從來の「シヤム」語、今の泰語科と云

ふものがあつたのを、御廢めになつたのはどう云ふ譯でありませうか、其の時分とは違ひまして、今の泰國は日本に對して相當好意を持つて居り、又貿易の關係から申しましても、相當の巨額に上りつゝあります、又日本への留學生も百數十名在留して居るやうな關係もありますし、「バンコツク」の都にも日本語の學校が現在行はれて居りますのに、どう云ふ譯で之を御廢めになつたのであるか、只今の國際間の關係を御覽になつて、外國語學校に速に之を復活なさるべきものであらうと存じますが、之に對する文部大臣の御意見を伺ひたい、又之に關聯しますと外交上の關係も深いのでありますから、外務大臣に於かれましてはどう云ふ御考を御持ですか、御伺したいのであります。

○松浦國務大臣　御答申上げます、東京の外國語學校で以前「シヤム」語、今日の泰國語の教授を致して居りましたが、今日は本科としてはやつて居りませぬ、是はすつと以前のことでありますが當時入學者が餘程少いと云ふやうな關係から、自然廢止になつたのであります、併しながら夜學部としては速成科として今日でもやつて居るのでありますが、今日泰國とは最も親善關係にありまして、又今後益々兩國間の親善關係は續けて行かなければならぬ事情にありますので、本科として之を設置することに付きましては、十分考慮致したいと考へます。

○有田國務大臣　日本と泰國との親善關係、殊に最近に於きましては色々な方面に於て關係が密接になつて來て居りますので、日本人が泰語を知ると云ふことは、極めて兩國の關係の上から申しまして望ましいことであると信ずるのであります、勿論泰語の如きは從來外務省の必要に應じまする爲に、泰語の入學生と云ふものは、時々作つて居つたのでありますが、併し一般外國語學校等に於ては、只今文部大臣の御話のやうに希望者が一時少なかつたと云ふことの爲に、或は之を取止めて居つたことと思ふのであります、併し吾々外交方面から見ます所では成るべく泰語を學習する者の多いやうになることを、希望することは勿論であります。

○山本(厚)委員　文部大臣は是の必要を認めて考慮すると仰しやいましたが、是は科を御設けになれば、必ず希望者があるのでありますから、是非明年度に於て御計畫あらんことを希望致して置ます。(以下略)

○東京外國語學校にタイ語本科復活設置方陳情

東京外國語學校にタイ語本科設置方に關し當協會より文部當局及び石井外語校長宛既に數度陳情したるが昭和十五年五月八日付を以て左記陳情書に昭和十四年十月三十一日付陳情寫を添へ松浦文部大臣(外六名)宛にて提出要請した。

陳　情　書

東京外國語學校ニ於テハ明治四十四年三月タイ(舊暹羅)語本科ヲ馬來語及ヒンドスタニー語本科ト共ニ創設セラレタル處大正三年三月及大正五年三月ニ各四名ノ卒業生ヲ出シタルノミニテ其後今日迄二十五年間募集ヲ行ハズ廢止ノ狀態ト相成居候、然ルニ近今數年ニ於ケル日泰兩國親善關係ノ急速ナル增進ニ伴ヒタイ語堪能ノ人士ノ需用亦急速ニ增加シ來レルモ之ニ應ズル能ハザル實情ニ有之如斯ハ國策上ヨリスルモ漫然看過難致次第ニ有之候ニ付至急東京外國語學校ニ於テタイ語本科復活方昭和十三年十二月廿四日附ヲ以テ石井外國語學校長宛進言シ越エテ十四年十月三十一日附ヲ以テ河原田前文部大臣外四名宛別紙寫ノ通リ陳情、今十五年三月ヨリタイ語本科ノ募集開始方懇願致シタル次第ニ有之候、然ルニ本件ニ就テハ學校當局ニ於テ如何ナル事情アリテカ更ニ眞面目ニ之ヲ取上ゲル熱誠ノ觀ルベキモノ無之、去ル三月十八日第七十五回帝國議會衆議院豫算委員會席上「外國語學校ニタイ語本科復活設置」ニ關シ山本厚三委員ノ文部及外務兩大臣ニ對スル質問ヲ惹起スルコト、相成、之ニ對シ兩大臣共極メテ理解アル回答ヲ爲サレタル由仄聞誠ニ意ヲ强フスル所ニ有之候我國南進政策上、泰國ノ重要性ニ就テハ更ニ絮說ヲ要セザル所從テ泰語ニ堪能ナル人士ノ養成ノ急務ナルコトモ亦、具眼ノ士ノ夙ニ認識シ居ル所ニシテ要ハ一日モ速カニ政府直轄學校タル外國語學校ニタイ語本科ヲ復活スルコトニ有之、二十數年前タイ語學習希望學生ノ乏シキコトニ藉ロシ此施設ヲ等閑ニ附ゝル如キ時世ニテハ斷ジテ無之候間何卒至急本件ヲ御取上相成、即時タイ語本科復活生徒募集御實行方ニ就キ御考慮被下候樣致度此段陳情及懇願候　敬具

昭和十五年五月八日

東京市麴町區霞ケ關三丁目四番地霞山會館內

財團法人　日本タイ協會

理事長代理　伯爵　二荒芳德

常務理事　子爵　三島通陽

常務理事　矢田長之助

文部大臣　松浦鎮次郎殿

文部政務次官　子爵　舟橋清賢殿

文部次官　赤間信義殿

文部參與官　仲井間宗一殿

教學局長官　菊池豐三郎殿

專門學務局長　永井浩殿

專門學務課長　有光次郎殿

○東京外語タイ語速成科第三回修了者

本年三月十六日午後二時より東京外語に於て卒業式を擧行したが其の際タイ語速成科修了證書を授與されたるもの左記八名であつた。

長谷川光保君（埼玉）　田村誠久君（東京）
樫村功君（茨城）　常岡悟郎君（兵庫）
中尾七郎君（長野）　津島敏男君（東京）
蔡英俊君（臺灣）　吉村純之輔君（東京）

○東京外語第四回タイ語速成科入學者氏名

本年四月東京外語タイ語速成科に入學を許可せられたるもの左の七名である。

畑野友苗君　簇手國廣君
松平久澄君　加藤可正君
柳澤金公君　津島金重郎君
川井田綠君

○東京外語タイ人教師の更迭

東京外國語學校タイ語速成科教師マーニット・パヤッカナンダナ氏は本年三月三十一日限り辭任されたるを以てその後任として四月一日より曾て第二回速成科教師たりしプラゴープ・プッカマン氏再度教鞭を取らるゝことゝなつた。

○青年文化協會經營「日語學院」の開講

八田嘉明氏を會長とする財團法人「青年文化協會」にては東京市神田區駿河臺東京晉樂學校分教室内に「日語學院」を開設した。主として南洋及西南アジア諸國の留學生にして將來日本の大學、高等學校及專門學校等に入學せんとする者に日本語を教授し兼て必要なる準備教育を施さんとする目的である。特色は各國毎に學級を編成し各其の國の國語を以て日本語を教授せんとするものである。本年度タイ國學生募集人員約三十名にて毎週月、水、金曜日午前八時より同十時迄を女子部となし午後七時より九時迄を男子部となし六月十二日より開講した。

○日本放送協會タイ語放送の開始

日泰兩國間、定期飛行開始と時を同ふして放送局では六月三日（金曜日）よりタイ語海外放送を實施した、要項左の通り。

放送時間　毎週月、水、金午後十一時十五分より二十五分迄十分間（日本時間）

コールサイン　J・Z・K

周波數　フリクエンシー　一五、一六〇

波長　一九、七九　メーター

右アナウンサーは在京タイ國學生二名が從事して居る、尙放送局では今回「ビルマ」語「ヒンドスタニー」語海外放送をも開始した。

○日泰定期初飛行機「松風號」盤谷郊外ドン・ムアングに安着

日泰定期航空の一番機松風號（J—BEOG）は六月十日朝六時半、東京羽田飛行場を出發同九時五十二分福岡雁ノ巣飛行場にて給油の後同十時三十五分臺北に向け出發したるが臺北飛行場附近は濃霧に包まれて位置不明、遂に豫定を變更し、臺灣西部を遙かに南下して快晴の嘉義に無事着陸した。十一日午前八時五十分嘉義から臺北飛行場に戻り給油の後同十時四十七分同地出發、廣東に向け快翔、同日午後四時廿分廣東着鵬翼を休め十二日午前六時十分廣東を出發佛印海岸を距る廿浬上空を飛行同日午後四時四十三分（日本時間）盤谷市二十粁を距れるドン・ムアング飛行場に安着茲に日泰間六千四百五十粁の定期航空初飛行を完了した。因みに遞信省にては六月十日の「松風號」東京出發壯擧を記念せんがため東京中央郵便局に於て『日泰航空路開設記念』なる特殊日附印を使用した。

○タイ國文部省に本協會より寄贈せる兒童映畫に對し駐泰村井公使より來信

昭和十五年二月五日附矢田常務理事宛左の來信があつた。

『客年十月二十五日附貴信御來示の趣敬承依而該フヰルム入手後十二月中旬開催の憲法祭に際し公開多大の好評を博したる後泰國文部省に對し寄贈の手續取計ひ置きたる處今般同省より右受領の旨並に貴協會の厚意に對し深甚なる謝意傳達方取計はれ度旨申越したるに付右樣御承悉相成度此段申進す』

○プラ・ピピツト・サーリ—氏の善光寺へタイ國

佛教經典奉納

盤谷日本・タイ協會副會長プラ・ピビット・サリー氏は此程タイ國スコータイ時代（今より五、六百年前頃）製作の佛教典籍九卷を本會常務理事三島連陽子爵宛に送致し來り、受領の上は然るべき日本の名刹に奉納されたき旨依囑された。因て、三島子爵は長野市善光寺にプラ・ピビット・サーリー氏の名を以て奉納された。

○「タイ國と山田長政」展覽會開催

本年三月二十日より六月二十日迄多摩川園にて讀賣新聞社主催「タイ國と山田長政」展覽會を開催したるが躑躅花衣裝の人形にてタイ國人情風俗及び山田長政一代記を表はし外に參考品陳列館もあつて一見タイ國情緒を窺ふに充分であつた。

○專修大學南洋事情研究會のタイ國留學生招待

專修大學南洋事情研究會にては日泰學生の親和を圖る目的を以て昨年十二月二十一日第一回懇談會を開催したるが本年も六月十九日午後六時半より同校講堂にて第二回日泰學生懇談會を開催タイ國學生十六名を招待し歡談を交へ和氣藹々裡に九時過散會した。

○タイ國人士の往來

△ルアング・デッヂヤテイウオング・バラバダナ氏
タイ國內務省土木局道路課長、五月二日より東京にて開催の第四回日本工學大會にタイ國內務省代表として列席のため三月三十一日入京、五月末日歸國の途に就かる。
△ルアング・ニテース・コラチヤツク氏
△バンモット・スワツト氏
本邦鹽業視察の爲め五月中旬タイ國より來朝、其後、瀨戸內海並に關東州鹽田視察の上、六月十日神戸發、盤谷丸にて歸國せらる。
△クンサーム・スラサツデー氏
タイ國陸軍少佐、同氏一行計四名は本邦に於ける皮革、罐詰研究の爲め六月三日入京、當分滯在の豫定。
△モムチヤオ・ランシマコーン・アパーカーン氏
△イアウ・ケーサチアン氏
兩氏共タイ國海軍將校、公務を以て六月十三日入京、當分滯在の豫定。

○笠原書記官の歸朝

盤谷在勤帝國公使館三等書記官兼任領事笠原太郎氏は四月十六日歸朝された。尙ほ同氏は外務事務官に任ぜられ歐亞局第三課勤務を命ぜらる。

○荒木、淺野兩家の慶事

本會名譽會員男爵荒木貞夫氏長男貞發氏（三二）は松井石根大將夫妻の媒酌にて本會理事淺野良三氏長女歌子孃（二〇）と四月五日華燭の典を擧げられた。

○細川、寺島兩家の慶事

本會評議員細川護立侯二女雅子孃（二五）は近衞公夫妻の媒酌にて寺島宗從伯（三一）と五月十六日午後三時飯田町大神宮に於て華燭の典を擧げられた。

○津田信吾氏の美擧

本會維持會員鐘紡社長津田信吾氏は上海に醫科大學を設立することゝなり之が建設費五百萬圓を出資さるゝことゝなつた。因つて今夏本會理事、慶大醫學部長北島多一博士は建設敷地選定のため教授團を組織渡支することゝなつた。

○山下龜三郎氏の美擧

本會維持會員山下汽船會社々長山下龜三郎氏は五月一日陸軍省に出頭「大陸にある陸海軍々人や軍屬の子弟の教育機關設立資金」として金一千萬圓を寄附した。陸軍ではこの奇特の申出に感激海軍側と協議の上財團法人を設立して學校の新設に乘出すことゝなつた。

○タイ國實業視察團來朝歡迎

日本貿易組合中央會の招待による訪日タイ國實業視察團々長プラ・パワロラー・ウイタヤ氏外四名の一行は三井ライン明石山丸にて四月十一日神戸入港翌十二日午後九時東京驛着入京した。各方面の視察と歡迎とを受けて五月十七日神戸出帆ブラジル丸にて新嘉坡經由歸途に就いた。當協會にては四月二十三日午後六時より華族會館に於て歡迎晩餐會を開催したが、當夜近衞會長代理德川副會長の歡迎（別記）挨拶あり、之に對しプラ・パワロラー・ウイタヤ團長よりの謝辭（別記）があつた。尙ほ出席の主賓並に來會者氏名は左の如くである。

（主賓）
ヴイブン・シー商會經營者　プラ・パワロラー・ウイタヤ殿
ヤトン商會經營者　ナイ・ソヴイエン・オサターヌクロ殿
トライアングル・ストア株式會社支配人　ナイ・サワツト・チヤンガム殿
ビサル・パニツト貿易商會副支配人

タイ・ライス株式會社代表　ナイ・ボー・バンブッパ殿
　　ナイ・ラ・オン・コームサン殿

（順序不同）

（出席者）
今村信次郎殿　飯野浩次殿
磯部美知殿　花柳德兵衛殿
細野軍治殿　東光武三殿
ルアン・ヴイラ・ヨーター武官殿　ルアン・ソンブラナ武官殿
ルアン・ラッタナチップ書記官殿
子爵岡部長景殿　大山周三殿
川島信太郎殿　吉田晴風殿
田村四郎殿　鶴見左吉雄殿
辻富三殿　中島宗一殿
中尾七郎殿　村上中佐殿
宇佐美元章殿　草場晁殿
山岡萬之助殿　山下芳郎殿
山口武殿　伯爵二荒芳德殿
藤井信殿　江口治殿
淺野良三殿　櫻井兵五郎殿
子爵三島通陽殿　宮原陽一殿
宮原武雄殿　清水揚之助殿
（協會）矢田常務理事　遠山主事
佐藤囑託

德川副會長の挨拶

（主人）副會長　侯爵　德川頼貞

閣下並に諸君

今夕は貿易組合中央會からの招請に應じて御來朝になりました泰國實業團御一行の爲に聊か小宴を設けまして御歡迎を申上げたのであります處團長プラ・パワロラー・ウイタヤ氏始め團員諸君は毎日御多忙の折柄御來臨を得まして誠に難有く存じます今夕は主人役近衞會長が急に差支が有りまして出席出來なくなりましたので私が會長に代て御挨拶を述べる次第であります。

タイ國と我國との關係は近年急速度に親善と相成りまして從て兩國要人連の往來も近來頻繁となりましたが**タイ**國より實業視察團を迎ふることは實は今回が始めてであります。

日泰兩國は共に東洋に立國し人種宗教を同ふし御互に兄弟の國と申しても宜しいのであります。兩國の歴史を見ましても此兩國の親交は三百年以前に遡ることが出來ます。而かも兩國は此長い歳月の間に唯の一度も不愉快の出來事がないのは誠に國際親交の歴史上稀有の事象と申すべく殊に此近今數年に亘りまして其親交は日に月に緊密の度を加へ行くのは欣快之に過ぐるものはないのでありますが斯くも兩國々交が敦睦を加へ行くのには何か其處に根本的の原因がなくてはならぬと思ひます。

然らば其原因は何でありませうか、それは前にも申述べました樣に兩國が共に東洋に立國し人種宗教を同ふすること〻今一つ最も大なる原因と申しますのは兩國の利害が政治上經濟上完全に一致し居り**タイ**國の繁榮と強大は直ちに我國の賴みとなり力となることであります蓋し今日世界中**タイ**國の發展と富强を衷心から希望することに於て日本程眞摯熱烈なる國は何處にありませうか、是れは篤と來賓諸君の御一考を願ふ所であります。

目下我國は支那事變の處理に邁進して居ります爲め爲替管理上其他の關係に於て泰國との貿易上多少の障害を蒙て居るのは誠に遺憾でありますが新支那政權も愈々確立を見ましたし曩て事變も終局を告げ東洋の新秩序も着々建設の新軌道に乘て來ることは自明の理でありまして其曉には日泰兩國の通商關係も正常化し前途一段の躍進を見ることは期して待つべき處であります就ては實業團の方々に於かれましても今回御來朝の機會を御利用なされ充分に我國朝野の人士と御接觸になつて互に眞率なる意見の御交換を遂げられ來るべき日泰兩國通商の躍進に備へらるゝ爲め充分なる御研究をなされる樣切望に堪えません。

終に臨み玆に來會諸君と共に杯を擧げてプラ・ウイダヤ團長を始め御一行の御健康を祝したいと思ひます。

プラ・パワロラー・ウイタヤ團長謝辭

會長閣下並に各位

タイ國實業團一同に代りまして御挨拶申し上げます、本夕は吾々一行の爲めに斯くも御鄭重なる晩餐會を御催し下されまして一行誠に光榮の至り厚く御禮申し上げます。

一行今回貴國に上陸以來到る處に於て懇なる御歡待を被り各工場等の見學に或は觀光に多大の便宜を得て居ります、これは乃ち吾々をして一層貴國と親しみ懷かしむるの情を深くせしむるのであります。

會長閣下の御話しの中の日泰兩國は古き昔より現在に至る迄何等の不愉快の出來事の無かつたと云ふことは吾等一同深き印象を以て拜聽致しました而して將來も斯の情態が續き行くものと確信致します。

御承知のことかと存じます、現在貴國には約百五十名の**タイ**國青年が留學勉學に勵んで居ります、この一事以て日泰兩國の友好關係が益々深くなりつゝあることを證するに足ると存じます、吾々一行歸國後は貴國に於ける吾等の見聞を本國同胞に傳達するに微力を致す覺悟であります。

之を以て御挨拶と致します終りに各位と共に杯を擧て日泰兩國の親善と貴協會の御隆昌を祝し度いと存じます。

○タイ國教育家訪日視察團歡迎會

國際觀光局招致の**タイ**國教育家にて盤谷ワチラウッド專門學校々長プラ・パーニット・サーンウイチート氏を團長とする男子六名女子五名の一行は五月五日午後四時半神戸入港の商船盤谷丸にて岡崎氏招致第三回**タイ**國學生旅行團と共に來朝した。

六日夕入京、各地の教育文化の視察と觀光を終へ六月十一日神戸出帆の同船で歸國したるが五月十二日晝當協會にては團長外五名（一行中五名は不參）を日本工業倶樂部に招き午餐會を催うした。當日の出席者はピヤ・シーセナ公使、ラタナチツプ書記官・ルアン・ソンブラナ武官、山口泰國留學生監督、山下領事、二荒理事長代理、矢田常務理事、觀光局案内係員、協會主事、囑託等であつた。

○岡崎氏招致第三回タイ國學生旅行團來朝

第三回**タイ**國學生旅行團一行十名は盤谷日泰文化研究所主事星田晋五氏に引率され五月五日神戸入港盤谷丸にて來朝した。岡崎家、神戸日泰協會、神戸商工會議所の關係者多數並に本協會より同地迄赴いた遠山主事、金澤貞三氏等に出迎へられて上陸した。本年は船便の都合上、滞日日數二十五日間に亘るを以て先づ神戸、大阪、京都、名古屋等の見學を濟まし十六日午後四時四十分東京驛着、直に神宮外苑日本青年館に落着いた。各方面より非常なる歡待と便宜を受け滞京十三日岡崎氏に對する感謝と各方面殊に歡迎學生諸君に對し感激を表しつゝ五月二十九日午前九時東京發西下同三十一日午後二時神戸出帆の西貢丸にて歸途に就いた。

尙ほ、第三回**タイ**學生團氏名は次の如くである。

岡崎氏招致第三回タイ國學生旅行團員氏名

氏名	年齡	備考
スツチヤイ・イエムオーパーツ	二四	經濟省商務局登錄課員
チヤイ・ウマキチヤニー	二五	日泰貿易翰旋所屬
マーノツプ・サンカミツ	二五	文部省文藝局々長附
ムオン・シーエーツ	二〇	機械商
ナツ・オーンヨン	二一	日本語學校在學
パイデユルヤ・ナカニツテイ	二三	チユラロンコン大學々生
パテイエング・バランクン	二〇	同右
ソラツタナ・スリヤ	二二	同右
トユーブ・タンマクン	一八	文政大學々生
アムポン・チツトラパテイマ	一七	同右

岡崎氏招致第三回タイ國學生旅行團見學日程

五月　五　日（日）　午後　五　時　神戸上陸（盤谷丸）（神戸館支店宿泊）

同　六　日（月）　午　前　中　自　由

午　後　一　時　寶塚觀劇（商工會議所招待）

同　七　日（火）　午　前　九　時　大同燐寸株式會社工場見學

同　十一時　鐘淵紡績株式會社兵庫工場見學

午　後　三　時　岡崎氏訪問來朝挨拶、茶會後記念撮影

同　八　日（水）　午　前　九　時　神戸北野尋常小學校參觀

午　後　一　時　日本毛織株式會社加古川工場見學

同　九　日（木）　午前九時卅分　神戸發、大阪に向ふ

同　十　時　大阪驛着（中央ホテル宿泊）

午　後　一　時　大丸デパート、千日前、道頓堀等見物

同　三　時　中座觀劇（大阪泰國貿易協會招待）

同　十　日（金）　午　前　八　時　大阪城見物

午　後　一　時　大阪放送局見學

同　三　時　電氣化學館見學

同　十一日（土）　午　前　九　時　武田長兵衛製藥工場見學

午　後　一　時　大阪朝日、同毎日兩新聞社參觀

同　三　時　旭日硝子株式會社工場見學

同　十二日（日）　午　前　十時半　大阪發、京都に向ふ

同　十一時　京都驛着（鳥居樓支店宿泊）

午　後　一　時　デパート　物產陳列館、動物園、鴨川踊等見物

同　六　時　奥田松坂屋京都支店長招待晩餐會（於アラスカ）

同　十三日（月）　午　前　九　時　京都名所見物（遊覽バス）（桃山御陵、乃木神社、三十三間堂、清水寺、圓山公園、知恩院、平安神宮、金閣寺、嵐山、東本願寺等

同　十四日（火）　午　前　十時半　京都發、名古屋に向ふ

午　後　二時十分　名古屋驛着（伊藤氏經營紫善館宿泊）

同　二　時　日暹寺參拜

同　三時半　揚輝莊訪問

同　六時半　縣、市、商工會議所合同主催歡迎晩餐會（於寸樂）
同　十五日（水）　午前　八時半　名古屋城見物、日本陶器株式會社工場見學
午後　一時　服部紡績工場、日本碍子工場見學
同　六時　名古屋日泰協會招待晩餐會（於樂善館）
同　十六日（木）　午前　八時半　服部養鷄園見學、縣立第一中學校參觀
同　十一時七分　名古屋發東京に向ふ
午後四時四四分　東京驛着、宮城遙拜（日本青年館宿泊）
同　十七日（金）　午前　九時　タイ國公使館、日本タイ協會訪問
午後　三時　日本タイ協會主催歡迎茶會（於震山會館）記念撮影
同　六時　外務省文化事業部主催歡迎晩餐會（於幸樂）
同　十八日（土）　午前　八時　東京市内見物（遊覽バス）（明治神宮、外苑競技場繪畫館、乃木邸、泉岳寺日比谷公園、二重橋前、三越本店、西本願寺、中央市場、國技館、淺草公園、上野公園、松坂屋、靖國神社、赤坂離宮、議事堂等）
午後　四時　タイ公使主催歡迎茶會（於公使館）
同　六時　東寶觀劇（日本タイ協會招待）
同　十九日（日）　自　由
同　二十日（月）　午前　十一時　横須賀驛着
午後　一時　横須賀市中、三笠艦見學
同　三時半　鎌倉見物
同　二十一日（火）　午前　十時　帝國大學參觀
正　午　三井タイ室主催歡迎午餐會（於三越特別食堂）
午後　二時　三越デパート見物
同　五時　講道館參觀
同　六時　東京外國語學校タイ語科授業參觀（記念撮影）
同　七時　銀座夜景見物（外語タイ語同和會案内）
同　二十二日（水）　午前　十時　陸軍戸山學校、陸軍幼年學校見學（昭和通商株式會社の斡旋に依る）
午後　三時　昭和通商株式會社主催歡迎茶會（於青山根津邸）記念撮影
同　二十三日（木）　午前　十時　上野公園動物園見物
午後　一時　議事堂參觀
同　三時　國際學友會主催歡迎茶會（於國際學友會館）
同　二十四日（金）　午前　十時半　横濱驛着
同　十一時　八聖殿參觀
正　午　倉田領事主催歡迎午餐會（於平安樓）
午後　一時半　日本ビクター蓄音器株式會社工場見學
同　三時　キリンビール株式會社工場見學
同　二十五日（土）　午前　九時　早稲田大學參觀
同　十一時　放送局見學
午後　二時　學生南洋研究會主催交驩茶會（於レーンボー・グリル）記念撮影
同　五時　稲見醫院長招待晩餐會（於院長邸）
同　二十六日（日）　午前　中　自　由
午後　三時　櫻井日本タイプライター會社々長主催園遊會（於櫻井邸）記念撮影
同　二十七日（月）　午前七時五五分　淺草驛發日光へ
東照宮、華嚴瀧、中禪寺湖等見物
同　二十八日（火）　自　由
同　二十九日（水）　午前　九時　東京驛發神戸へ
午後五時三十分　三ノ宮驛着（神戸館支店宿泊）
同　六時半　岡崎氏主催報告晩餐會（於神港ビル）
同　三十日（木）　午前　中　大阪商船高千穗丸見學
午　後　六甲山登山
同　三十一日（金）　午前十一時半　西貢丸乘船
午後　二時　出帆離國

○岡崎氏招致第三回タイ國學生旅行團より金澤貞三氏へ贈れる禮狀

團員ソラツタナスリヤ君より當協會囑託案内者金澤貞三氏宛滞日中の世話指導を謝したる書信の飜譯である。

昭和十五年六月四日西貢丸にて

ソラツタナ・スリヤ

尊敬せる先生

小生等は今朝、基隆に到着仕候。道中無恙、風浪にも見舞はれずして、六月一日午前十時門司に到着仕候。小生等は門司に上陸、市街を見物仕候。門司は小さき町にて格別、美しき所にて無之、又小生等は囊中至つて淋しきため、樂しきことも味ひ兼ね、市中を一巡歸船、夕方出帆致候。船中は食事抔も宜敷く盤谷丸よりも氣持よく、西貢丸は小生等に快感を與へ申候。食事の度毎に先生の事を想出し候。それは東京滞在中、朝起ると必ず先生の溫容に接し其の氣持は如何にしても忘れ難きもの有之候。小生等は故國より參りても少しも寂寞を感じたること無之候。其れは先生の懇切なる御配慮が行屆き居れる結果に外ならず、何と言ふても先生の事は忘れんとしても忘る能はず候。若し先生が盤谷に御來遊の節は何卒小生等に御知せ願上度候。然らば小生等は喜んで歡迎申上げ、海天酒樓にて御馳走申上ぐ可く候。若し小生等は再び渡日の機會有之候場合は誰にても先生に御會ひ致すべく候。日本滞在中は大變御面倒を御懸け致し、嘸身心共に御疲れの事と恐縮致候。然るに先生には一生懸命に小生等のために御世話下され、船に乘る迄、小生等の行動に間違ひでも起らねばよいがと細心御心添へ下され感佩致候。若し小生等の行動に御不滿の點有之候節は幼者の爲せる事として御容捨を給はり度候小生等は志操堅固ならず、且つ短氣に有之候へども何時も懷かしの先生を尊敬し致居候。先生と御別れ致し候は身體丈にて心は何時も先生の體に結付き居候。銀座、外苑前、青山、三越、日本青年館も今は懷かしの思出となり居候。樂しき事や、過去の事を追憶し、先生に引率して頂いて見學した場所を思ひ泛べ文化の東京に今少しく居られたらばよかつたがと名殘惜しく存居候。

小生等を種々御世話被下候日本タイ協會の方々に何卒、宜敷御傳言願上度候。日本人は總べて小生等タイ人に對して非常に親切にて何所へ赴き候とも喜んで歡迎して與れ申候。小生等は歸國の後は人々に觀察し見聞したことを審かに報告致すべく候。

岡崎忠雄樣は慈善心强く寛仁の長者にて在はし候。凡そ如何なる民族でも人間である以上、互に協心協力、朋友として相信せざるべからず候。盤谷へ到着後は人々に更にもつと趣味ある報告を傳へ聞かすべく候。船中は頗る無聊故、東京にて買求め候レコードを演奏したり、輪投げに打興じたり讀書、養鷄をなし毎日愉快に過し居候。夜に入るや歡談し、團長チヤイ・ウマヰチヤニー君に巫山戲散らして騷ぎ居候。彼は何時も明朗で怒れることなく、時々大聲で巫山戲ごつこをして鄕愁ひ遊び相手になり嬉々として過ごし居候。西貢丸は滿員にて些か窮屈の感有之候。先生が小生等に御便りを下さるならば左記宛にて願上候。これにて小生等は失禮致すべく候。先生を懐かしく思ひ目を閉ぢ候節は尊顏彷彿として現はれ、傍らに在ますが如き感致候。小生等は至つて元氣にて航海を續け居候。小生等は日本語、未だ充分ならず止むなくタイ語にてお便り申上置候

盤谷市チユラローンコーン大學

機械科學生

ソラツタナ・スリヤ

○元經濟相ブラ・サラサ氏夫妻歡迎小宴

我國經濟調査のため來朝中の元經濟相ブラ・サラサ氏夫妻歡迎小宴を當協會主催にて四月十八日午後六時半より虎の門晩翠軒にて開催したが、協會幹部諸氏陪席した。

○笠原書記官の歡迎小宴

盤谷駐劄帝國公使館書記官兼領事笠原太郎氏歸朝歡迎小宴を六月廿日正午より滿鐵あじあ食堂にて協會主催開催した。

○正木直彦氏逝去

本會々員東京美術學校名譽教授正木直彦氏は三月二日午前零時半、牛込區矢來町自宅に於て逝去された。享年七十九、洵に哀悼に堪えず。

○古河虎之助男の逝去

本會々員男爵古河虎之助氏は三月三十日慶應病院に於て逝去せらる。享年五十四歳。謹で哀悼の意を表す。

協會記事

○拓務省より補助金下付

豫て拓務省に對し補助金下付方申請中の所、今般同省より本年度經常費中に金貳百圓也を補助する旨の、三月廿八日附指令拓總第八四號を接受した。

○會員の異動

正木直彥氏逝去に付評議員一名削除

○會員の異動

前號掲載後の異動は左の通りである。

（イ）新入會員（四名）

通常會員　樫村　功君（東京）印刷業

同　ヴイラ・ヨー君（同）駐日泰國公使館附陸軍武官

同　ター・ドロン君（同）

同　佐々木菖山君（同）會社員

同　大瀧　貴光君（臺灣）臺北帝大助教授

（ロ）退會々員（五名）

通常會員　男爵　藤田平太郎君　（二月十六日逝去）

同　正木　直彥君　（三月　二　日逝去）

同　男爵　古河虎之助君　（三月三十日逝去）

同　稻垣　茂樹君　四月二十四日退會

同　西園寺八郎君　六月二十四日退會

○會員の消息

△林久治郎氏（名譽會員）三月二十九日出發南洋方面に出張旅行タイ國にも立寄らるゝ筈定。

△岡部長景氏（理事）四月三十日滿洲旅行に出發せられ五月下旬歸京さる。

△木戸幸一侯（名譽會員）六月二日內大臣に親任せらる。

△細川護立侯（評議員）定期叙勳に於て勳二等瑞寶章を授けらる。

△片岡安氏（通常會員）訪伊經濟使節團員として四月十日神戸解纜の榛名丸にて渡伊さる。

△鶴見左吉雄氏（理事）△中川末吉氏（通常會員）△斯波孝四郎氏（通常會員）△八田嘉明氏（通常會員）△酒井忠正伯（理事）△藤山愛一郎氏　通常會員　△安宅彌吉氏（特別會員）以上の諸氏四月十二日價格形成中央委員會委員に選任さる。

△阿部信行氏（通常會員）新支那中央政府樹立慶祝特命全權大使として四月十五日午前九時東京驛發、晴の首途に就いた。

△櫻井兵五郎氏（維持會員）四月廿六日民政黨議員評議員聯合會に於て同黨幹事長に當選した。

△三島通陽氏（常務理事）五月廿日貴族院研究會の政務審査部理事に就任せらる。

△岡崎久次郎氏（評議員）三月上旬民政黨を離れ無所屬となられた。

△村田省藏氏（理事）腸チフスにて聖路加病院入院中、四月廿一日矢田常務理事御見舞に行かる。

○寄贈圖書

左記の通り各々寄贈を受け厚く感謝する次第である。

一、Statistical Year Book-Siam (B. E 2478—2479)

一部　駐日タイ國公使館

一、Bangkok Chronicle (annual)

一部　貿易組合中央會

一、日本在留タイ國學生會々報第三卷第一號（タイ語）

一部　日本在留タイ國學生會

一、タイとはどんな國か（宮原武雄）

三十部　三井タイ室

一、一九三九年タイ國政治經濟情報（三井タイ室調査部）

二部　三井タイ室

一、華僑研究資料（企畫院調査部）

一部　企畫院調査部　第二室

一、南洋日本町の研究（岩生成一）

一部　南亞細亞文化研究會

一、蘭領印度に於ける華僑（滿鐵東亞經濟調査局）

一部　滿鐵東亞經濟調査局

一、近代日本の產業（日本優良物產協會スペイン語）

一部　日本優良物產協會

一、圖書目錄第四輯（三井物產本店業務部）

一部　三井物產株式會社本店業務部

○財團法人日本タイ協會

總裁及役員並職員

總裁　秩父宮雍仁親王殿下

名譽總裁　アテイット・デバヤ・アバ殿下

會長　公爵　近衛文麿

名譽會長　駐日タイ公使　ピヤ・シー・セナ

同　駐タイ國日本公使　村井倉松

副會長　侯爵　德川賴貞

理事長（代理）　伯爵　荒芳德

常務理事　伯爵　荒芳德

同　子爵　三島通陽

同　理事　男爵　矢田長之助

同　男爵　大倉喜七郎

同　子爵　岡部長景

同　鶴見左吉雄

同　南條金雄

同　村田省藏

同　矢田部保吉

同　吉田俊之助

同　淺野良三

同　伯爵　酒井忠正

同　醫學博士　北島多一

同　三好重道

監事　工學博士　門野重九郎

評議員　井上雅二
同　侯爵　犬丸徹三
同　細川護立
同　公爵　德川圀順
同　岡崎久次郎
同　河井彌八
同　子爵　加藤泰通
同　加藤勝太郎
同　文學博士　高楠順次郎
同　子爵　黑田長敬
同　倉田猛郎
同　江口定條
同　榎並充造
同　出淵勝次
同　安住伊三郎
同　醫學博士　北島多一
同　關屋貞三郎
主事　遠山峻
タイ國學生會館學監　高久正義

日本——盤谷航路定期出帆表

（昭和十五年三月以降）

大阪商船會社

盤谷丸	西貢丸	盤谷丸	西貢丸
七、二五	八、五	九、二四	一〇、五
七、二六	八、六	九、二五	一〇、六
七、二八	八、八	九、二七	一〇、八
七、三〇	八、一〇	九、二九	一〇、一〇
七、三一	八、一一	九、三〇	一〇、一一
八、三	八、一四	一〇、三	一〇、一四
八、六	八、一七	一〇、六	一〇、一七
八、八	八、一九	一〇、八	一〇、一九
八、一二	八、二三	一〇、一二	一〇、二三
八、一四	八、二五	一〇、一四	一〇、二五

横濱	名古屋	大阪	神戸	門司	基隆	海口	海防	西貢	盤谷清
月日	月日	月日	月日	月日	月日	月日	月日	月日	月日
七、二五	七、二六	七、二八	七、三〇	七、三一	八、三	八、六	八、八	八、一二	八、一四
八、五	八、六	八、八	八、一〇	八、一一	八、一四	八、一七	八、一九	八、二三	八、二五
九、二四	九、二五	九、二七	九、二九	九、三〇	一〇、三	一〇、六	一〇、八	一〇、一二	一〇、一四
一〇、五	一〇、六	一〇、八	一〇、一〇	一〇、一一	一〇、一四	一〇、一七	一〇、一九	一〇、二三	一〇、二五
一一、二四	一一、二五	一一、二七	一一、二九	一一、三〇	一一、三	一一、六	一一、八	一一、一二	一一、一四
一二、五	一二、六	一二、八	一二、一〇	一二、一一	一二、一四	一二、一七	一二、一九	一二、二三	一二、二五

三井物産船舶部

盤谷丸	西貢丸	盤谷丸	西貢丸
七、二八	八、一四	九、一三	一〇、一四
七、二九	八、一六	九、一四	一〇、一六
七、一八	八、二七	九、一三	一〇、二七
七、一九	八、二八	九、一四	一〇、二八
七、二八	八、二三	九、一三	一〇、二三

横濱	名古屋	大阪	神戸	門司
月日	月日	月日	月日	月日
八、二三	八、二三	七、一七	七、一八	七、一九
九、八	九、九	八、二五	八、二七	八、二八
一〇、二三	一〇、二三	九、一一	九、一三	九、一四
一一、八	一一、九	一〇、二五	一〇、二七	一〇、二八
一二、二三	一二、二三	一一、一一	一一、一三	一一、一四
		一二、二五	一二、二七	一二、二八

朝日丸	明石丸	朝日丸	明石丸	朝日丸
七、二八	九、六	九、一三	一一、六	一一、一三

〔非賣品〕

昭和十五年六月二十六日　印刷納本
昭和十五年六月三十日　發行

東京市麹町區霞ヶ關三丁目四番地三
發行所　財團法人　日本タイ協會
電話銀座二六五六番
振替口座東京一四八三一番

發行兼編輯人　遠山峻

東京市淀橋區戸塚町一丁目二二〇番地
印刷人　河田保治

東京市淀橋區戸塚町一丁目二二〇番地
印刷所　明立印刷株式會社